

特集

川島会の医療を支える **Co-MEDICAL**

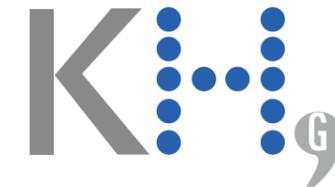
第17回 日本高齢者腎不全研究会

新たな医療提供体制

第9回 川島病院市民公開講座

2019年度事業計画

2018-2019 Photo Report



Kind 優しい

Honest 誠実な

Growing 伸びゆく

社会医療法人 川島会

●川島病院

●川島透析クリニック ●鴨島川島クリニック ●鳴門川島クリニック

●脇町川島クリニック ●阿南川島クリニック ●藍住川島クリニック

社会福祉法人 飛鳥

●ケアハウス ●在宅介護支援センター ●デイサービスセンター ●ヘルパーステーション

川島ホスピタルグループ広報誌 第17号 2019年12月発行 発行/川島ホスピタルグループ

〒770-8548 徳島市北佐古一番町1-39 TEL.088-631-0110 FAX.088-631-5500

企画・編集/川島ホスピタルグループ広報委員会 川島ホスピタルグループホームページ <http://www.khg.or.jp> デザイン・印刷・製本/太陽高速印刷(有)



表紙写真:3年前の阿波おどり開幕式にブルーインパルスが来て、一糸乱れぬアクロバット飛行を行い大勢の観衆を魅了しました。この年の開幕式は藍場浜演舞場で行われ、大空に大輪の華を描き開幕を祝いました。(撮影/川内秀喜)

Contents

Kawashima Hospital Group Magazine

2	特集 川島会の医療を支える Co-MEDICAL
15 BEST SHOT 今年の1枚 撮影・川島周 理事長
16 第17回 日本高齢者腎不全研究会
21 新たな医療提供体制
22 第9回 川島病院 市民公開講座 「のぼそう健康寿命」
28 2019年度事業計画
29 2017-2018 Photo Report 健康・福祉フェスタ・とくしまマラソン・阿波踊り・慰安旅行 部活・サークル紹介・BBQ
42 主な行事
43 2018-2019年 資料編



Kind 優しい

Honest 誠実な

Growing 伸びゆく

私たちの病院の理念

- 1 患者さんをはじめ、関係する方々との信頼関係を築きます。
- 2 病院経営の質の向上に努め、良質で効率的かつ組織的な医療を提供します。
- 3 地域社会の健康および福祉の増進に貢献することを使命とします。

私たちの病院の基本方針

私たちの病院は

- 1 患者さんや家族の方々との信頼関係に基づいた、患者さんの立場に立った医療を提供します。
- 2 公正な医療の提供と医療の質の向上に努めます。
- 3 腎泌尿器疾患と糖尿病の診断と治療に総合的に携わる病院として地域の皆様に信頼していただけるよう、日々全力を傾注します。
- 4 患者さんに安心して医療を受けていただけるような良質な医療環境医療体制を構築します。
- 5 地域社会の一員として、また社会的存在として行動し、その責任を果たします。



川島会の医療を支える

Co-MEDICAL

特集

「Co-Medical (co-medical)」とは医師・歯科医師以外の看護師を含む医療従事者の総称として用いられます。現代は、医療の高度化・複雑化にともない、以前は医師のみが行っていた業務の細分化・分業化が進んでいます。従って、Co-Medicalには、高度な専門性の追究と、日々の自己研鑽を重ねた多職種が連携しあい、チーム医療を実現することが求められています。

1982年の第1回糖尿病患者教育担当者セミナーの講演において、当時の東京慈恵会医科大学長が患者教育には医師のみならず全ての関係スタッフの協力が不可欠として、医師以外の関係スタッフを「協同」を意味する接頭辞の「co-」を用いた「Co-Medical」との呼称の使用を提唱したことが始まりとされています。

「Co-Medical」という名称は、後に定着する「チーム医療」の考えと合致し、日本の医療業界に広く受け入れられました。

川島会におけるCo-Medicalは、看護師、薬剤師、看護助手、歯科衛生士、管理栄養士、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、臨床工学技士、医療事務、クラークと12の技術職がチーム医療を担っており、2019年10月現在、川島会では約500名のCo-Medicalスタッフがあり、それぞれの専門性を活かしながら様々な部署で活躍しています。

今回は、川島会で働く特に元気のCo-Medicalスタッフをご紹介します。

理学療法士／宮本智彦



看護助手

入院患者の身の回りの世話や介助から 看護師のサポートまで

One Day Schedule

看護助手の1日



8:30

・申し送り・透析送迎



9:00

・入浴介助

10:50

・昼休憩(1時間)



12:00

・配膳、食事介助、おむつ交換、透析送迎

15:00

・おむつ交換、ゴミ捨て、環境整備

17:00

・翌日の透析患者さんの準備、申し送り

総勢78名。病棟、外来、透析室、手術室において、生活環境にかかわる業務として、病床周辺の清潔整頓、リネン類の管理、入退院の準備。日常生活に関わる業務として、入浴、清拭、排せつ、更衣、体位交換および、移動の介助、診療に関わる業務として検査の付き添い、透析の送迎を行っています。

看護助手とは

シーツ交換などの環境整備、食事の配膳、食事介助、排せつ介助(おむつ交換)、透析室への送迎、入浴介助、各種検査の付き添いなど患者さんの身の回りの援助が主な役割業務です。

川島病院では



矢勢 正博
2012年入職

勤めて約7年になります。超高齢社会の中で介護職という仕事にやりがいを感じています。相手の立場に立ち親身にお世話をさせてもらうことに誇りをもって仕事しています。これからも笑顔を絶やさず患者さんと向き合い接していきたいと思っています。

看護師からの信頼があり、何時も気持ちのいい返事が返ってきます。誰に対してもまじめな態度で接してくれています。

看護部長
大下千鶴



大代 美琴
2014年入職

入職してあっという間に5年間が経ちました。毎日が充実し、楽しくやりがいのある仕事です。休日の私は、家族のために料理をしたり、愛娘とショッピングに出かけたり、時にはかわいいかわいい4人の孫たちと遊んでいます。今後の展望として、川島病院の看護助手が1人1人、その人の良いところが出ている病棟作りが出来たらと思います。みんなで力を合わせて患者さんの気持ちに寄り添い介護、介助をしていきたいと思っています。

1病棟看護助手のリーダー的存在。今年度より看護助手主任として活躍し、責任感があり頼れるパートナーです。

看護部長
大下千鶴



看護師

大きく分けると「診療の補助」と「療養上の世話」になります。「診療の補助」では、医師の指示のもと看護ケアを行い、検査や治療がスムーズに行えるようにします。「療養上の世話」は、入院生活の援助や介護を行います。また、看護師は患者さんや他の職種スタッフから得た情報や意向を医師に伝え、「医師と患者さん」「他の職種と医師」と、チーム医療の中で橋渡しし、役的存在にもなります。

看護師とは

検査や治療をスムーズに チーム医療の橋渡し役的存在

川島病院では

1病棟では現在20名在籍。主に糖尿病や腎臓器疾患を持つ患者さんの看護ケアを行っています。当院は、透析を導入する患者さんが多く、入院中のケアだけでなく、血液透析患者さんのシャントの管理や腹膜透析患者さんのバッグ交換手技等、退院後に自己管理ができるように指導しています。手術も年間1200件以上と少なくありません。患者さんが、安心して手術を受けられるように手術前日に説明を行い、術後は痛みのコントロールや合併症の予防に努めています。



森浦 弥生
1996年入職

好奇心旺盛で、色々なことに興味を持ち、すぐ熱くなるタイプ。特に音楽は昔から好きで、好みのアーティストや楽曲を見つけた時はテンションが上がります。

いつも心がけていることが2つ。1つ目は、人にはなるべく明るく笑顔で接するようにしています。看護師が笑顔だと患者さんも少しは明るい気持ちになれると思うので。2つ目は、自分が得た知識や経験を後輩達にわかりやすく伝えたいと思っています。特に救急対応に力を入れていて、説明しながら自分自身もみんなと一緒に成長していきたいと思っています。

ドクターからの一言

病棟業務でお世話になっています。患者さんの少しの変化も見逃さない観察力は、一緒に仕事をしていて大変頼もしいです。



診療部長
西谷 真明先生

One Day Schedule

看護師の1日



16:00

・受け持ち患者さんの状態をリーダーに報告



13:00

・ラウンドで、残された処置等



12:00

・交代で食事休憩
食後は、おしゃべりしながらお菓子を食べ、気分をリフレッシュ

9:00

・受け持ち患者さんの病室をラウンド、検温や状態の観察を行い、コミュニケーションを図る
・注射や点滴の実施、配薬
・状態に応じて、処置や清拭や洗髪など
・検査や手術予定患者さんのケアや入院患者さんの対応

8:30

・夜勤者から日勤者へ申し送り
・日勤者は、受け持ち患者さんの情報を収集
・配薬や注射の準備
・病室の環境整備

One Day Schedule

薬剤師の1日



8:30

病棟業務

13:00

病棟カンファレンス

13:30

昼食



14:30

病棟業務



薬剤師

12名の薬剤師が勤務しています。当院では慢性腎臓病の患者さんを多く診療していますが、その患者さんごとに、特に腎臓の機能低下に応じてお薬の調整が必要となってきます。患者さんそれぞれの腎機能の検査値や状態を見ながら、その患者さんに適したお薬が使用されているか確認をしています。

川島病院では

- 患者さんに適した薬物療法が行われるように、医師や看護師をはじめとする多くの医療スタッフと連携し、次のようなことを行っています。
 - 処方せんに基づく調剤
 - 薬の飲み合わせの確認
 - 薬の適切な使い方の指導
 - 注射薬の払い出し
 - 高力ロリー輸液の調製
 - 抗がん剤の調製
 - 薬の情報収集、管理
 - 薬の在庫、品質管理
- 薬剤師は、お薬に関して新しい知識や技術を学び、患者さんに効果的かつ安心してお薬を使用して頂けるようサポートしています。

薬剤師とは

川島病院 医科14名、歯科2名、各クリニック(6施設)には2名から5名を配置し総勢 35名(派遣含む)の職員体制です。

入職 3年目です
が、薬剤部業務目標の責任者として積極的に取り組んでいます。明るく、穏やかで患者さんにもやさしく丁寧に指導しています。

川島病院 院長 西内 健先生



一般社団法人日本病院薬剤師会が開催している日病薬病院薬学認定薬剤師制度の認定資格取得に向けて、学会・講演会・研修会に参加し、知識を身に付けています。得た知識を活かし、患者さんに安心して薬物治療を受けて頂けるような服薬指導を目指していきます。

山口 誠美
2017年入職



管理栄養士

8名の管理栄養士が入院、外来患者さんを対象に、食事管理、個別栄養指導、集団栄養指導(糖尿病教室、じんぞう教室、心臓リハビリテーション)でのミニレクチャー)を行い、治療・療養をサポートしています。

川島病院では

- 入院食の給食管理
 - 入院患者さんの栄養管理
 - 入院・外来での栄養指導
- 管理栄養士の仕事は、病気の治療、再発防止、合併症の予防を目指し、患者さん一人ひとりの病状に合わせた、食事提供や栄養指導を通して栄養管理を行うことです。また、栄養サポートチームでは医療チームの一員として医師や看護師など他職種と協力し、管理栄養士の立場から患者さん個々の栄養状態に応じた提案を行っています。

管理栄養士とは

食を通して患者さんと関わらせて頂く中で、管理栄養士として病状や個々の食生活に合ったアドバイスを行なうよう心掛けています。今後、栄養指導を行う上で、患者さんがより実行しやすい方法はないか探求していきたいと思っています。

病気の治療で大切な食事療法について、管理栄養士の視点から適切な指導とアドバイスをしていただき感謝しています。

糖尿病内科 部長 小松 まち子先生



木村 浩徳
2016年入職

木村 浩徳
2016年入職



医療事務

医療事務とは

医事課では、保険制度で定められた診療報酬の点数をもとに患者さんが加入している保険や公費にあわせて、患者さんへの自己負担の請求や保険者へのレセプト請求をすることが主な業務です。患者さんが受けられた診察や治療に対し、診療報酬の正確な算定を行うことが求められるので、多くの知識や経験が必要となります。

医療費が高額になる場合には「高額療養費制度」、これから透析を開始する患者さんには「特定疾病療養受領証」や各種公費など、患者さんの自己負担をできるだけ少なく受診いただけるように手続き方法をご案内しています。

川島病院では

医師及び看護師や薬剤師などがおこなった医療行為をカルテから把握し、適切に算定しています。医療行為に対して不明点があった場合は、随時問い合わせを行うなど常に各職種と連携して対応しています。また各クリニックでは、受付対応や電話対応もあわせて行っています。

川島病院 医科14名、歯科2名、各クリニック(6施設)には2名から5名を配置し総勢 35名(派遣含む)の職員体制です。

受付・会計業務や保険者へのレセプト請求

入院事務に配属されて2年になります。最初は右も左も分からない中で大変でしたが、最近は患者さんとお話できる事が楽しみのなっています。患者さんとのコミュニケーションの中で学ぶ事もあり、とてもいい経験をさせていただいております。患者さんの中には保険等の手続きを難しくとらえてしまわれる事もあり、不安に思われる方々もいらっしゃいます。少しでも患者さんの不安や疑問に答えられる様にしておりますのでいつでもお声かけいただければと思います。

成尾しのぶ
川島病院勤務
入院会計担当
2017年入職



1年ほど前に他部署から医事課へ異動してきましたので医療事務に関する知識も浅く、周りの先輩方のフォローに助けられることも多々あります。まだまだ勉強の毎日ですが、気がつけば先輩もでき、任される仕事も増え、身の引き締まる思いをしています。知識を向上させるのはもちろんのこと、今後は広い視野を持ち、他部署とも連携を取りながらチーム医療に携わってまいります。

小林 圭太
川島病院勤務
外来会計担当
2016年入職



入院事務でお世話になっています。いろいろなお願いに、いつも軽いフットワークで対応いただけて大変ありがたく思っています。

診療部長 西谷 真明先生



外来事務でお世話になっています。物腰が柔らかく優しい印象ですが、前向きで熱いハートも持つナイスガイです。

診療部長 西谷 真明先生



管理栄養士の1日

8:15

出勤

9:00

川島透析クリニックでの栄養指導

11:30

検食

13:00

外来栄養指導

14:30

入院食の献立会議

16:00

入院患者の食事変更業務

16:30

検食

17:00

退勤

One Day Schedule

医療事務の
早出勤者の1日

8:00 窓口・電話・来客対応、会計入力
更生医療意見書下書き準備
各種診断書の処理

7:50 前日のオーダー一覧を印刷
前日の透析患者人数を入力

7:45 受付内レジの準備
受付のシャッターを開ける

7:35 出勤

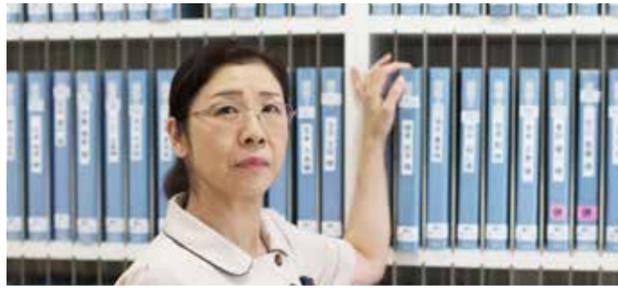
12:30 会計入力の内容、チェック・直し

16:30 退勤

16:00 郵便物の確認・処理
(スキャナー)

15:30 介護主治医意見書
下書き準備

11:30 昼食・休憩



私は派遣で4年、正職員で2年、計6年間透析室に勤務しています。約10年前に医師事務作業補助者として医療の現場に入りました。病院によってクラーク業務が異なり、戸惑う場面もありましたが、良い経験になりました。



桃井 久美子
(透析室クラーク)
2017年入職

様々な病院での経験を培いたく、派遣という雇用形態で勤務を続けていましたが、患者さん・医師・スタッフとコミュニケーションをとりながら仕事をしていくうちにチーム医療の一員として川島病院で勤務を継続したいと思うようになり、職員採用試験を受けました。

正職員になり、より一層の責任感を持ち業務に取り組んでいます。特に医師やコメディカルがそれぞれの業務を円滑に遂行できるよう助け合い・情報の共有等を心がけています。

患者さんとは、透析前の体重測定時に自宅での状況変化等の報告をしてくれるようになり、どんなことでも気軽に話せるよう常に患者さんに寄り添う姿勢を意識して対応しています。

今後は更なる医療知識の向上を図り、透析室全体の業務がスムーズに行えるよう努力します。

透析室クラークは回診時カルテの作成はもちろんのこと、文書作成やその他の事務業務を、多岐に渡り担当していただいています。クラークが担う仕事内容は非常に幅広く、命を預かる医療の現場において様々な業務をこなすことは決して容易なことではありませんが、桃井さんは私を含め多くのスタッフから頼られる存在です。また、医療スタッフの負担軽減、診察や治療に専念できる環境作りなど、医療の質の向上にも大きく貢献していただけており、今後のさらなる活躍を期待しております。



腎臓内科 医長 井上 朋子先生



私は入職して17年目になります。当初はクラークという部門はありませんでしたが、医師の事務作業をサポートする体制をつくり始めました。医療知識の乏しい私でしたが、たくさんの医療スタッフによる丁寧な指導により、できる事務作業が徐々に増えていきました。現在では、家庭と仕事の両立を頑張るママさんクラークも多く活躍する大所帯となり、みんなでフォローし合いながら頑張っています。



森本 麻友美
(外来クラークリーダー)
2003年入職

カルテも紙カルテから電子カルテへと移行し、クラークの業務内容はさらに拡大していきました。求められる業務は部署・診療科によって異なり、各々にクラークを育成する必要があります。新たな診療科の業務に挑戦しつつ、幅広い業務をこなすことは、決して容易なことではありませんが、チーム医療の一員として頼りにされていると、日々強く実感しています。私は、医師・患者さん・周りの方々からすぐに声を掛けて頂けて、頼みやすい存在でいられるように、いつも笑顔で対応するように心がけています。

クラーク業務立ち上げの時期より体制づくりに貢献したベテランクラークです。外来クラークのリーダーとして、後輩クラークの指導・アドバイス役をこなしています。私の診療サポートをお願いすることが多く、たくさんの患者さんの診療に加え、数多くの書類作成も効率よくでき大変助かっています。川島会でのクラーク部門は大きな組織となり、その重要性はますます大きくなると考えます。診療業務の充実のため、医療知識ならびに接遇の向上に心がけていただきたいと思います。



川島会 理事長 水口 潤先生



クラーク

診療が円滑に行えるようサポートする 「縁の下の力持ち」

クラークとは

クラーク(医師事務作業補助者を含む)は医師やコメディカルが行うさまざまな作業を補助する仕事です。診察時の電子カルテ代行入力、診断書作成の補助、窓口・受付業務、看護業務の補助、物品運搬業務など病院ごとに異なります。日々たくさんの患者さんを診察する医師やコメディカルの業務が円滑に行えるよう様々な面から補助する縁の下の力持ち的な存在です。

川島病院では

川島会では、クラークが57名在籍しており、受付・外来・病棟・透析室・薬局・検査室・放射線科・リハビリ室に配属され、各部署により業務内容が異なります。例えば受付クラークは新患・再来患者さんの受付や電話対応を、外来クラークは外来診察時の電子カルテの代行入力、病棟クラークは病棟回診での代行入力等をメインの業務としています。様々な部署に配属されているクラークですが、医師やコメディカルが円滑に業務を遂行できるよう、多様な業務を担っています。クラークという職種を扱っていない病院も多い中、当院では県内でも早くからクラークの導入を開始しました。現在では各部署にとって無くしてはならない存在となっています。



藤本 静菜
2017年入職

私は入職してもうすぐ2年になります。医療関係の仕事に就くのは初めてで最初は不安だらけでしたが、先輩クラークの指導を受けながら日々勉強することで現在も不安なく業務を行っています。それぞれの診療科に外来クラークが配属されており、私は循環器内科を担当しています。当科は循環器領域全般(虚血性心疾患、不整脈、弁膜症、末梢動脈疾患、静脈系疾患)を対象としています。

主に診察時の電子カルテ代行入力や診察・入院予約、診断書作成の補助などを行っています。その他にも患者さんに対して検査や入院の説明も行います。その際は不安な思いや心配を抱えている患者さんに対して丁寧な説明や声掛けを心がけています。患者さんから感謝の言葉をいただいた時や医師のサポートが円滑に行え、待ち時間なく患者さまをご案内できた時にはすごくやりがいを感じます。今後は更なる医療知識の向上を図り、医師の事務的作業の負担軽減に努めます。

ドクターからの一言

まだ入職して2年にもなりません。が、循環器外来のクラークとしてしっかりと医師補助業務ができています。患者さんへの対応も良く、今後ますますの成長を期待しています。



川島病院 院長 西内 健先生

17:00 <
業務終了



14:00 <
外来診察



13:00
診察前準備



12:00
昼休憩

9:30 <
外来診察



9:00
診察前準備



8:30
申し送り

(本日の診察や検査などについて)

One Day Schedule

外来クラークの1日



理学療法士 作業療法士



臨床工学技士

医療機器のスペシャリスト

臨床工学技士とは

臨床工学技士は、臨床工学技士法に基づく国家資格であり、医師の指示の下に生命維持管理装置の操作及び保守点検を行うことを業務としている医療機器の専門家です。
医師や看護師、他の医療関係者と連携し、チーム医療の一員として患者さんに良質な安全な医療技術を提供しています。

川島病院では

臨床工学の技術と知識を人間性豊かに提供することで、医療に貢献するという基本理念のもと、現在70名(サテライト施設含む)の臨床工学技士が血液透析業務を中心に、アフレス・手術室業務・心血管カテーテル業務・水質管理・ME 機器管理・臨床治験・研究業務等に携わっています。



相坂 佳彦
2011年入職

県内外の病院での経験も含め、臨床工学技士として携わり15年目を迎えました。血液浄化業務と同様に循環器業務の方面からも、微力ではありますが、これからも貢献していきたいと思っております。



長野 圭吾
2017年入職

臨床工学技士として働き始めて6年目を迎えました。平成28年3月に大学院を修了し、研究に携わってきました。これからは、川島病院や川島透析クリニックを研究の方面からも益々盛り上げていきたいと思っております。



臨床工学部 部長 田尾 知浩

人間性豊かで専門的な知識も高く、努力を惜みず業務に励んでいます。今後の活躍が楽しみな人材です。



臨床工学部 部長 田尾 知浩

どんな場面でも柔軟に冷静に対処できる能力があり、自己研鑽にも努めており、今後の飛躍を期待しています。

One Day Schedule

臨床工学技士の一曰

--	--	--	--	--

日常生活の基本動作の改善を目指す「動作の専門家」

理学療法士とは

ケガや病気などで身体に障害のある人や障害の発生が予測される人に対して、基本動作能力(座る、立つ、歩くなど)の回復や維持、および障害の悪化の予防を目的に、運動療法や物理療法(温熱、電気等の物理的手段を治療目的に利用するもの)などを用いて、自立した日常生活が送れるよう支援する医学的リハビリテーションの専門職です。
関節可動域の拡大、筋力強化、麻痺の回復、痛みの軽減など運動機能に直接働きかける治療法から、動作練習、歩行練習などの能力向上を目指す治療法まで、動作改善に必要な技術を用いて、日常生活の自立を目指します。

川島病院では

現在7名の理学療法士が入院・外来患者さんを対象に、運動指導、個別理学療法、心臓リハビリテーションでの集団訓練を行っています。また5月から新たに介護保険による短時間通所リハビリを開始しました。



玉谷 高広
2014年入職

今回日本理学療法士協会認定理学療法士(代)を取得することができました。学んだことをしっかりと臨床に活かして、さらには循環器分野の認定資格取得を目指し、質の高い内部障害リハビリを実践できればと考えています。



循環器内科 部長 高森 信行先生

リハビリ室のムードメーカーでもあり、スタッフからも患者さんからも信頼厚く、頼もしい存在です。仕事も研究も積極的に取り組んでいます。

作業療法士とは

対象者の「作業」に焦点を当てた治療・支援を得意としています。
ここの作業とは、食事や着替えなどのセルフケア、家事や仕事、余暇活動など日常生活に関わるすべての諸活動のことを指します。
怪我や病気など、何らかの理由で作業がうまくいかなかった時、作業療法士は様々な方法で対象者をサポートしていきます。また、身体だけでなく精神面に対しても作業を用いてアプローチすることが出来ます。
対象者が自分らしく生き生きとした生活を送ることができるよう、様々な作業を通して心と体を支えていきます。

川島病院では

現在1名の作業療法士が入院外来患者さんを対象に、応用的な作業や活動を通して身体と心のリハビリテーションを行っています。例えば理学療法で獲得した立ち上がりの動作をさらに一歩進めて、トイレの動作や着替えの動作など、日常生活に必要な動作へとサポートします。



登井 麻絵
2018年入職

2018年8月より、川島病院で初めての作業療法士として勤務しています。透折患者さんは、様々な疾患を合併されていることもあり、患者さん一人一人に応じた関わりを持つことを大切にしています。



循環器内科 部長 高森 信行先生

当院で初めての作業療法士です。丁寧に患者さんに接している頑張り屋さんです。これからも期待しています。

理学療法士の一曰

作業療法士の一曰



診療放射線技師

一般X線撮影、回診X線撮影、X線TV検査、血管造影検査、CT検査、MRI検査、骨密度測定検査、オベス透視、結石破碎の画像検査に携わっています。現在技師数は11人で、分担して業務を行っています。

川島病院では

検査や治療のためにX線やその他の高エネルギー放射線などを扱う医療技術者で、医師、歯科医師以外で人体に放射線を照射することのできる唯一の技術資格です。「レントゲン技師」とか「X線技師」と呼ばれることもありますが、正確には「診療放射線技師」といいます。放射線技師の扱う一番身近な装置は、レントゲン博士が発明したX線装置ですが、CT・血管造影・Rー検査（放射性医薬品を体内に入れて撮影）、また、放射線を使わないMRI検査・超音波検査も行っています。

診療放射線技師とは

医師、歯科医師の指示を受け 検査や治療において放射線を扱う仕事



平松 康平
2017年入職

岡山生まれ岡山育ちで大学も岡山で生粋の岡山県人でしたが、縁あって2年前に瀬戸大橋を越え徳島へやってきました。最初は慣れない土地で不安だらけでしたが、徳島の方はあたたかくすぐに生活にも慣れました。職場においても、働き始めは不安いっぱいでしたが先輩方が優しい言葉をかけてくれて前向きに頑張る気持ちになりました。うまくいかず落ち込んでいた時に先輩から貰った言葉は一生の財産になりました。さらに、現在は、専門性の高い業務に取り組みべく研修を頑張っています。また趣味はバス釣りです。徳島には有名な旧吉野川のほか、釣りができる場所も多く、毎週末釣りに行っています。気分転換に最高です！

ドクターからの一言

私が川島病院に就職して初めてのシャントPTAの時、一緒に就いてくれた技師さんが平松君でした。非常に気のきく技師さんという印象をもちました。そしてそれは今も同じです。



放射線科 部長
城野 良三先生



臨床検査技師

患者さんの診断データを集め、 医師に提供する検査のスペシャリスト

臨床検査技師とは

病気の診断や治療を目的として、医師の指示の下で各種検査を行う仕事です。臨床検査をすれば、患者さんが症状を自覚する前に異常をとらえることもあり、病気の早期発見、早期治療につながります。医師は検査によって得た情報をもとに患者さんを診断するため、臨床検査は診療において非常に重要なものとなります。検査結果を医師に正しく伝えることによって、診断や治療をサポートします。

川島病院では

現在、臨床検査技師は13名です。大きく分け、「検体検査」と「生理機能検査」の2種類にわかれており、また検査室に隣接する採血室では外来採血も行っています。「検体検査」とは、尿や便・血液・細胞・喀痰から値や形態に異常があるのかどうか検査を行っています。内容としては一般検査（尿検査）、生化学検査（血液検査）、血液検査（血液検査）、免疫検査（血液検査）、輸血検査（血液検査）、病理検査が主になります。「生理機能検査」とは検査担当者が患者さんに直接接して行う検査で、循環器に関するもの（心電図・心臓カテーテル検査）神経系に関するもの（脳波・神経伝導速度）呼吸器に関するもの（肺活量）超音波を使用するもの（心エコー・腹部エコー・頸動脈エコー・下肢静脈エコー・シャントエコー）などがあります。



池田 ゆか
2018年入職

検査室では主に検体検査を担当しています。中でも尿沈渣検査を行うことが多く、最近では腎生検に関する業務も行っています。腎生検業務では手術室に向き、標本を作成した後、検査室にて薄切、染色、撮影を行います。尿沈渣検査と腎生検業務に携わることで、腎疾患のスクリーニングから診断に至るまでの過程に関わることができ、やりがいを感じています。今後は研究、学会発表を積極的にを行い、得られた知識を日々の業務に生かしていきたいと思っています。

ドクターからの一言

検体検査から腎生検まで、幅広い専門知識と技術を持った臨床検査技師です。検査室は学会参加、発表にも非常に積極的でレベルも高く、池田さんも積極的にこなしています。これからも活躍を期待しています。



腎臓内科 島 久登先生

One Day Schedule

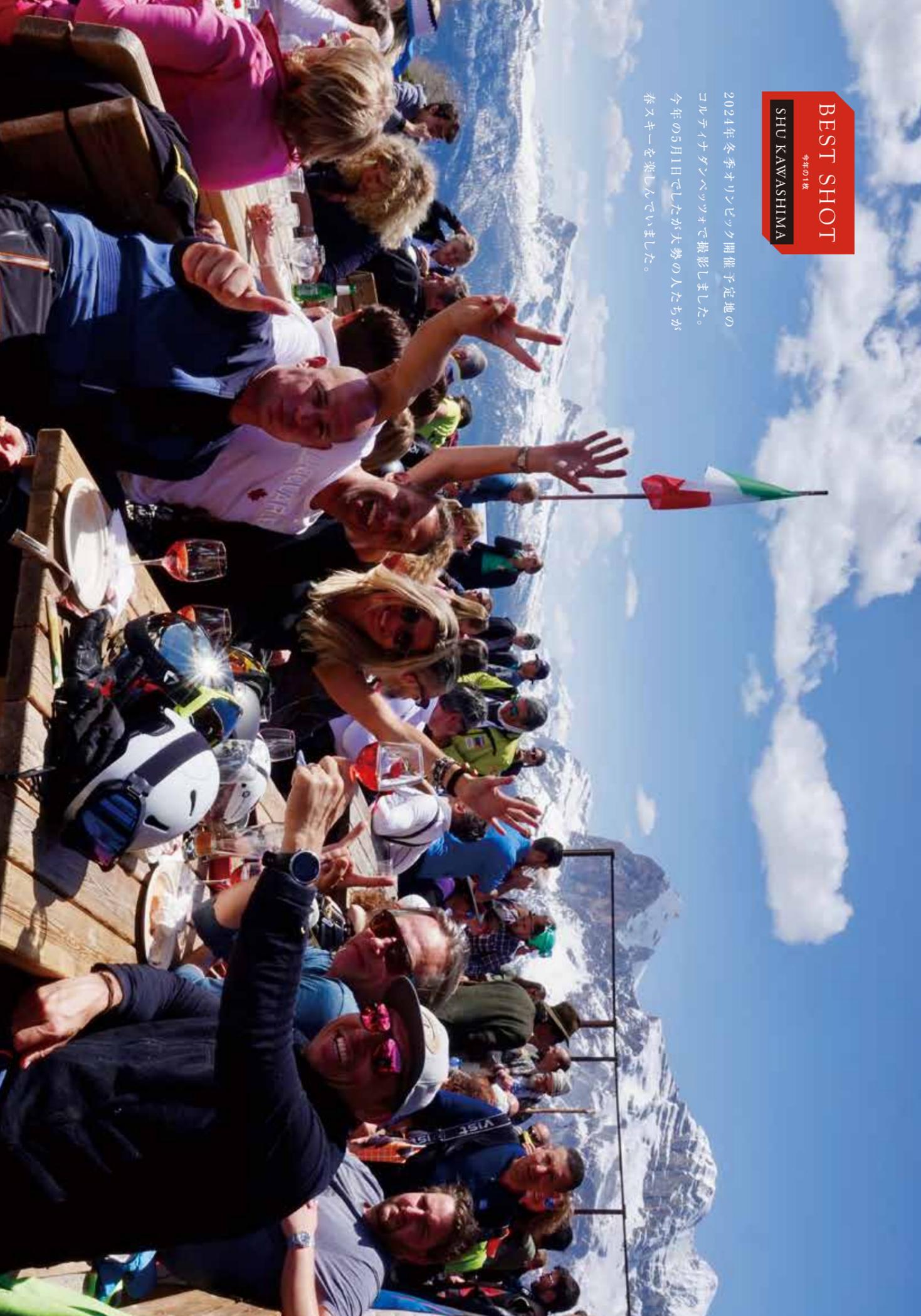
診療放射線技師の1日

- 8:20 朝礼
- 8:30 担当の部門へ移動、始業点検を行い、撮影業務開始
- 13:00 昼休憩
- 14:00 業務再開
- 17:00 本日業務の反省、終業点検、翌日の検査確認

One Day Schedule

臨床検査技師の1日

- 8:30 検体検査業務（主に尿沈渣検査、週に一度、午前中採血業務）
- 12:00 昼食
- 13:30 症例検討会
- 14:00 腎生検業務（標本薄切、染色、撮影）



BEST SHOT
今年の1枚
SHU KAWASHIMA

2024年冬季オリンピック開催予定地の
コルチナダンペンツォで撮影しました。
今年の5月1日でしたが大勢の人たちが
春スキーを楽しんでいました。



歯科衛生士



お口から、健康で過ごすためのお手伝い

歯科衛生士とは

歯科衛生士は、歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図ることを目的として、人々の歯・口腔の健康づくりをサポートする国家資格の専門職です。
仕事の内容は、歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導と三つの業務が法律に定められており、それぞれに専門性の高い知識・技術を必要とします。

川島病院では

当院の歯科衛生士は5名で、外来診療と病棟での口腔健康管理（口腔ケア）を主に行っています。
外来では、歯周病やむし歯が全身と関連していることを歯科衛生士の立場から患者さんへ伝えていきます。病棟では、患者さんの全身状態に合わせて口腔衛生に努めています。
また、「食べる・話す」に必要なお口の機能を維持、向上することを目的とし訓練を行うこともしています。



薦田 茜
2016年入職

歯科衛生士になって4年目を迎えました。現在は、外来にいらっしゃる患者さんの歯のメンテナンスや入院患者さんのお口の掃除など、たくさんのお患者さんと関わる事ができとても充実しています。「歯茎から血が出なくなった」「口の中がすっきりした」など、患者さんが自分のお口の中の変化を実感し、嬉しそうに話されているのを見るとやりがいを感じます。患者さんの中には、口から食べたくても、病後の後遺症や筋力の低下によって思うように食べられない方もおり、お口の健康の重要性を改めて感じました。今後は、摂食嚥下についてさらに学び、患者さんの健康をお口の面からサポートしたいと考えています。

歯科医師からの一言

徳島大学口腔保健学科在学時に川島病院で臨床実習を行い、卒後就職して今年で4年目になりました。まじめで明るく日々の業務を行っています。今年は、透析患者の災害時における口腔衛生管理の重要性というテーマで臨床研究を行い、9月には初めての学会発表を行いました。これからもますます頑張ってもらいたいと思います。



歯科 医長
川島 友一郎先生

One Day Schedule

歯科衛生士の1日



16:00	14:00	13:00	12:00	10:00	9:00	8:30
業務記録作成、電子カルテへの入力、患者の申し送り	病棟で口腔ケア	スタッフミーティング	病棟で食事観察	病棟で口腔ケア	診療補助、電子カルテで担当患者の状態を確認	診療室で始業準備



当番幹事 岡田一義
（社会医療法人川島会 川島病院 副院長）

川島ホスピタルグループ（KHG）の多くのスタッフにポスター発表をしていただき、また、ポスター座長も引き受けていただき、研究会を盛り上げていただきました。慢性腎臓病はキュアが望めないため、高齢者に寄り添って信頼関係を構築し、高齢者の思いも受け止めながら、共同意思決定（shared decision making: SDM）と人生会議（advanced care planning: ACP）により、保存期～導入期～維持期～人生の最終段階のいずれでもより良いキュアとケアを提供し、病状によってはキュアとケアを融合し、生活および生命の質（quality of life: QOL）を向上することが重要です。私が座長を務めたシンポジウム「高齢者CKDにおけるキュアとケアの融合」で、KHGで維持透析を受けている患者さん

に「高齢透析患者からの意思表示」の講演を依頼し、引き受けていただきました。しかし、患者さんが病気のために入院し、講演できなくなってしまう。大変残念でしたが、その娘さんに代読していただくことになりました。「透析に至るまで」「38年前の透析」「チーム医療の先駆け」「患者会の目的」「高齢透析患者の悩み」「透析に関する学習と意思表示」について、父親の歩んできた道を代読する姿を見て大変感動し、会場では涙を流す参加者も少なくありませんでした。最後には、私が提唱している「尊厳生」についても触れていただき、この患者さんの家庭ではエンディングノートを作成し、ACPを行い、人生の終焉をどう生きていくのか日頃より話していただきました。SDM、ACP、事前指示書の普及により、我が国でも質の高いキュア、ケア、その融合が生まれつつあると感じました。

第17回 日本高齢者腎不全研究会 高齢者腎不全医療～キュアとケアの融合～ とき:2019年7月27日(土)～28日(日) ところ:あわぎんホールにて



高齢者 腎不全医療の 課題

水口潤（社会医療法人川島会理事長）

わが国は世界一の長寿国となり、また透析医療の進歩につれて高齢者の透析患者数は増加の一途をたどっている。日本透析医学会の統計調査による2017年末の慢性透析患者総数は334,505人で、平均年齢は68.43歳と年々増加傾向を示している。高齢者といってもADLや生活環境・家族背景など個人差は大きく、合併症もさまざまであり、それぞれに適した最適な治療法の選択がされるべきである。

高齢者における血液透析のメリットは、週3回透析施設に来院するだけで治療が完結し、他の4日は治療が休みのため、デイケアサービスなどの通院も可能である。一方、腹膜透析は24時間で行うマイルドな透析法であり、社会復帰や在宅医療をメリットとしており、ADLが維持されている高齢者、通院が困難な高齢者どちらにも適している。また、高齢者のPD療法は必要最小量の透析液量での維持が可能で

あり、医療経済的にも費用対効果の高い医療であることが示唆されている。

近年、高齢者医療において老年症候群、サルコペニア、フレイルなどの用語が汎用されるようになってきた。高リン血症はCKD患者での死亡率低減のための治療ターゲットとして認識されており、蛋白質・リン摂取制限が推奨されてきた。一方、高齢腎不全患者ではサルコペニア罹患が多いとされているが、蛋白質摂取量減少が血清リン上昇よりも生命予後悪化に強く影響すること示されている。近年、骨格筋減少機序に筋肉合成および分解のバランス異常の関与が明らかになってきており、定期的な運動に加え、十分量のエネルギーと分枝鎖アミノ酸を中心とした蛋白質、必須脂肪酸を確保する医学的介入を要すると考えられる。

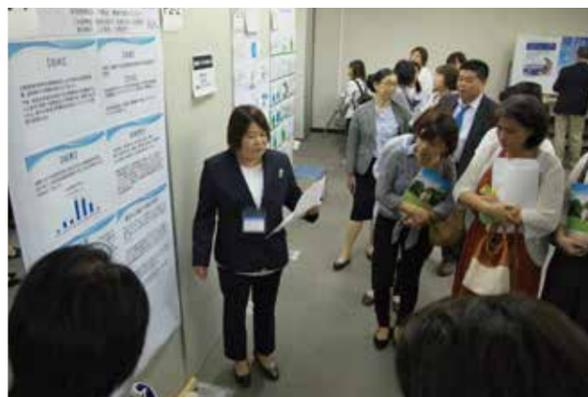
合併症が多くADLの低下をきたしている高齢者においては、入院や介護の必要性の高いことも医療上の大きな問題である。自宅での介護が困難で入院透析が必要であっても、入院可能な病床の増設は不可能であり、福祉施設や老人保健施設などでの受け入れと、透析施設と入所施設あるいは自宅との間の送迎などの対策を考えなければならぬ。この問題解決には社会資源を活用した在宅支援、介護の必要性はもちろんであるが、今後は終末期の問題も避けては通れない状況となっている。

第17回 日本高齢者腎不全研究会に参加して



看護師 山田 美佳

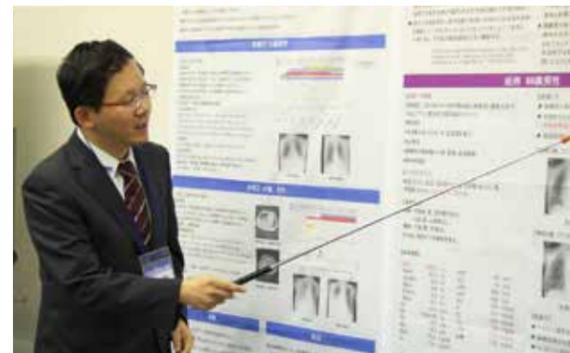
今回「地域連携」のポスター発表で参加させて頂きました。キュアとケアの融合というテーマのもと、全国の施設の方々の講演や発表を聞かせて頂き、SDMを活用した、高齢者患者に寄り添う支援の必要性を学ぶ事ができました。その中でも、初めて透析患者さん(娘さんの代読)の発表を聞いた事は、なにより感銘をうけました。



看護師 原田 郁子

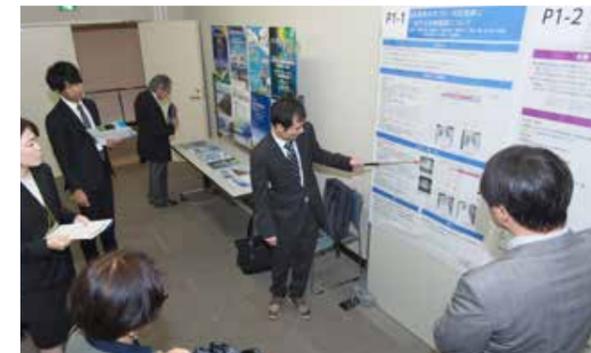
今回、初めてのポスターでの発表で参加させて頂きました。とても緊張しましたが、大変良い経験が出来ました。

また、他施設の発表や特別講演など沢山の講演を聞くことができ、高齢腎不全患者に対する日々の食事管理の大切さを再認識することが出来ました。これからの業務に役立てていきたいと思えます。良い経験をさせて頂き感謝いたします。



腎臓内科 医師 島 久登

2019年7月27日～28日に「高齢者腎不全医療～キュアとケアの融合～」というテーマで、第17回日本高齢者腎不全研究会が徳島で開催されました。当院副院長の岡田一義先生が当番幹事を務められました。会場では多くの参加者で活発な議論が展開されました。多岐にわたる内容で当院からも多数の発表がありました。私は「胸腹部大動脈瘤破裂に対し保存加療のみで長期生存が可能であった血液透析患者の一例」という症例報告(Shima H, et al. J Palliat Med. 21: 1206-1207, 2018)を徳島赤十字病院の先生方と共同で行いました。精神疾患や認知症で病識がない高齢患者の手術適応に関しては明確な答えがないのが現状で、End-Of-Life-Careのあり方を考える上で重要な一例でまとめるにあたり勉強になりました。今後ますます進む患者の高齢化においてチーム医療としての医師の役割、多職種連携に関して考える機会になりました。



腎臓内科 医長 田代 学

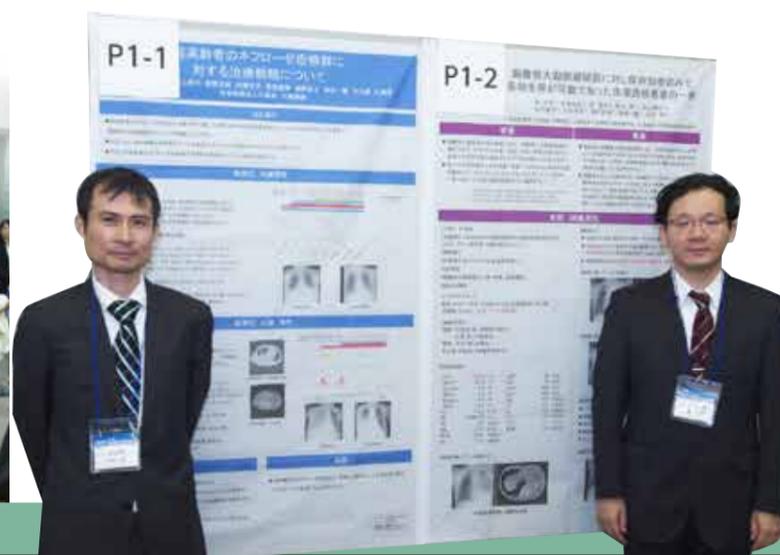
今回、徳島県で開催された第17回高齢者腎不全研究会に参加してポスター発表をさせて頂きました。

最近が高齢者におけるフレイル(加齢により心身が衰えた状態)・サルコペニア(加齢による筋肉量の減少)対策が話題となっており、高齢者における筋力低下や栄養障害を改善させることがQOL(生活の質)や予後の改善につながるとされています。そのため食事療法、リハビリなどの分野においても積極的に介入していくことが重要になっております。

今回、高齢者におけるネフローゼ症候群の治療戦略について発表させて頂いたのですが、高齢患者さんにおける治療方針については難しい症例が多いのが現状であります。そのため、治療目標については患者さんの全身状態をみながら見極めることが多いです。

高齢者においては、キュア(医学的な治療で治すもの)が困難な患者さんが多くケアがより重要な役割となると考えられます。

今回の学会のテーマとなっていたキュアとケアの融合ということがQOL(生活の質)の向上に繋がるために、医師のみでなく看護師、薬剤師、臨床工学技士、メディカルソーシャルワーカー、介護士、栄養士など多職種の連携にて治療することの大切さを認識する研究会になったと思います。



2021年7月 新たな医療提供体制



新築移転にともない、老人ホーム・サ高住なども併設予定



臨床工学部 主任 廣瀬 大輔

今回の大会テーマは、「高齢者腎不全医療 ～ケアとキュアの融合～」で大盛況でした。私は、この研究会にポスター発表という役割で参加させていただきました。この研究会に参加することで、透析の高齢者医療について私自身がさらに考えるよい機会となりました。この経験を生かし、今後の臨床業務に役立てたいと考えています。



臨床工学部 部長 田尾 知浩

第17回日本高齢者腎不全研究会、一般演題「適正透析」の座長として参加しました。今回のテーマは高齢者腎不全医療～ケアとキュアの融合～であり、内容の充実した有意義な議論が行われて、知見を深める良い機会になりました。当院でも、今後増加する高齢腎不全患者のQOL向上に繋がるようにチーム医療の充実と全人的なケアを融合させて行きたいと思います。



臨床工学部 課長 道脇 宏行

本邦における透析患者さんの平均年齢は68.43歳(2017年末日本透析医学会統計調査)であり、WHOが示す高齢者基準の65歳を上回っています。しかし、高齢者と一口に言っても患者さんの状態はそれぞれです。

今回評価したオンラインHDFはいくつかの治療条件を組み合わせることによって、さまざまな効果を得ることのできる治療法です。患者さん一人ひとりに対し、その時々で最適な治療が提供できるよう、今後も日々の診療にあたりたいと思います。

開会のあいさつ

病気の知識
患者と共有

川島 周

(川島ホスピタルグループ会長)



腎臓長く元気に

市民公開講座も、今年で9回目となった。診療に携わるわれわれ臨床医は、普段から「患者さんとの対話」を大切にしている。そして、円滑な治療を進めるためには、病気や治療に対してお互いが共通の知識を持つことが必要だと考えている。今回は、東京女子医大の新田孝作教授にお越しいただき、腎臓病と最先端の治療法について講演をいただく。続いて、当院医師が前立腺、女性のおしっここの病気について話をする。最後に、鶯春夫先生に健康寿命を延ばす体操を紹介いただく。楽しんで聞いてほしい。



第9回

川島病院市民公開講座



座長のあいさつ

最先端の
治療法知って

水口 潤

(社会医療法人川島会理事長)



今回の市民公開講座のメインテーマは「腎臓、泌尿器科の疾患」。日本の慢性腎臓病（CKD）患者は、全国に約1300万人いると言われている。腎機能が低下すると、脳卒中や心臓病のリスクが高くなる。腎臓病は病状が進行すると血液透析や腎移植が必要になるので、検査による早期発見、早期治療がとても重要である。本日は、最先端の治療法を、新田先生にわかりやすくご解説いただいた。また、高齢者に多い前立腺や膀胱の病気についても理解を深めていただき、皆さまの毎日の健康管理に役立ててほしい。

「のぼそう健康寿命」

第9回社会医療法人川島会川島病院市民公開講座「のぼそう健康寿命」(同病院、徳島新聞社主催)が7月7日、徳島市のJRホテルクレメント徳島で開かれた。東京女子医大の新田孝作教授が「もっと腎臓病を知ろう」をテーマに特別講演。慢性腎臓病の基礎知識や、他の腎臓病について解説した。川島病院泌尿器科部長の西谷真明氏は前立腺の病気について、川島病院泌尿器科医師の伊藤文子氏は女性のおしっこの悩みについて、徳島文理大保健福祉学部の鶯春夫教授は、認知機能改善と口腔機能改善をテーマに「いきいき百歳体操」を披露した。



登壇者

- ◆開会あいさつ
川島 周
(川島ホスピタルグループ会長)
- ◆座長あいさつ
水口 潤
(社会医療法人川島会理事長)
- ◆特別講演
新田 孝作氏
(東京女子医大腎臓内科学教授)
- ◆講演
鶯 春夫氏
(徳島文理大保健福祉学
理学療法学科教授)
- ◆講演
西谷 真明
(川島病院泌尿器科部長)
- ◆講演
伊藤 文子
(川島病院泌尿器科医師)



特別講演

「もつと腎臓病を知ろう」

新田 孝作氏 (東京女子医大腎臓内科学教授)



腎臓は約10センチ程度の大きさで、腰の少し上の背中側に二つある。血液から不要な物質(老廃物・余剰水分など)を除去し、尿として体外に排せつする役割を担っている。また、体に必要なホルモンを作り出し、ミネラル(電解質)や、酸性・アルカリ性のバランスを調整して体内環境を一定に保つ働きをしている。腎臓の内部にある「糸球体」という組織は、フィルターのような働きを

早期治療で透析を回避

なるまでにスクリーニング検査を受け、早期治療を受けるよう勧めている。腎不全治療から透析・移植までについて。慢性腎臓病(CKD)はできるだけ早い段階で治療介入することで、透析導入を回避できる。食事や血圧管理など、ご自身での生活習慣の改善も

して血液のろ過を行っている。

IgA腎症は、異常なIgA(免疫グロブリンA)が糸球体に沈着して腎臓に炎症が生じる病気で、放置しておけば数年単位でゆっくりと進行し、やがて腎不全につながる恐れがある。初期は無症状、検診で尿所見異常(タンパク尿・顕微鏡的血尿)が見つかる場合が多い。確定診断には腎生検が必要となる。治療法は、炎症が強い時は「扁桃摘除術」や「糖質制限」による「降圧薬(レニンアンジオテンシン系阻害薬)」が有効である。早期発見・早期治療をすれば、将来的に透析治療にならずに済む時代なので、気になる方は早めに受診をしてほしい。

ネフローゼ症候群では、大量のタンパク尿により、低アルブミン血症を来し、まぶたや膝下に浮腫(むくみ)の症状

大切だ。しかし、病気の進行や、他のさまざまな原因で腎臓の機能が十分でなくなると、腎代替療法が必要となる。この療法は、腎臓の機能が10%以下、腎不全による症状が内服薬でも回復しない状態、腎臓の機能だけでなく、症状も含めた総合判断が必要とされる。「血液透析」は、血液を機械できれいにする療法で、1回4〜5時間、週3回通院してもらう必要がある。「腹膜透析」は、在宅で透析ができる療法で、ご自身の腹膜を利用して血液をきれいにする。腹膜透析を日中に行う場合は、1日4回の透析液交換が必要。夜間に行う場合は就寝中に機械が自動的に透析液を出し入れする。通院は月に1〜2回程度で済む。腎移植は、ドナー(臓器提供者)の腎臓を腎不全の患者さんに移植し、腎臓の機能を働かせる治療法である。透析からは解放されるが、免疫抑制薬をずっと飲み続ける必要がある。最後に、CKD患者さんの高齢化に伴い、フレイル(虚弱状態)予防と対策が重要になっている。それぞれの病状に合わせて、食事管理と薬物療法に加え、散歩などの有酸素運動や軽い筋力運動を日常生活に取り入れ、これからも元気に長生きしてほしい。

が現れる。進行すると、高脂血症や血栓症などさまざまな病気を合併する恐れがある。病院ではまず尿検査と血液検査を行い、タンパク尿と低アルブミン血症の数値を調べる。異常があれば、腎生検による病理診断により、確定診断となる。副腎皮質ホルモンを使用している治療法は免疫を抑え、炎症を鎮める効果があるが、副作用も多いため、感染症や糖尿病への注意が必要だ。患者さんの中には、ステロイドが効かない人、再発を繰り返して内服をやめられない方もいる。しかし、最近、頻回再発型微小変化型ネフローゼ症候群患者に「リツキシマブ」が有効だということが分かってきた。この薬は、6カ月ごとに投与するだけで、副作用もほとんど見られない。また、保険適用されているので、費用の負担も軽い。ステロイドを飲み続けることがつらい患者さんにとって、これは革命的な薬と言っているだろう。主治医と相談しながら治療に臨んでいただきたい。



多発性嚢胞腎は、腎臓に嚢胞(分泌物が入った袋)が多発し、進行すると腎機能が低下する病気で、遺伝性がある。A子さん(40歳・女性)の例を紹介する。人間ドックで高血圧と腎臓に嚢胞が見つかったA子さん。実のお母さまが嚢胞腎で透析されていたので、念のためエコー検査を行うと、「遺伝性

の多発性嚢胞腎」と診断された。この病気は、脳動脈瘤などの合併症や、くも膜下出血につながる恐れがある。治療は、1日2リットルの水と降圧薬を飲んでもらいながら経過観察をしたが、効果が見られなかったため、トルバタンという薬による入院治療を行った。その後、Aさんは難病申請を行い、月に1度の通院をしながら、投薬治療を続けている。遺伝性については、Aさんの子どもたちのうち、誰に遺伝するかは分からない。現在は治療薬も出ているので、子どもたちが30歳に

講演

「いきいき百歳体操(徳島版)で元気で長生き」

鷲 春夫氏

(徳島文理大保健福祉学部理学療法学科教授)



日本人の平均寿命は世界第2位で、男性は約81歳、女性は約87歳。しかし、問題なのは、介護を受けずに自立して生活できる「健康寿命」である。要介護者は年々増加傾向にあり、それとともに介護保険料も上がってきている。病気になるば、医療費に加え、介護保険料の負担が家計を圧迫する。超高齢社会が進む中、誰もが、最後まで生き生きと過ごしたいと願っている。そのためには、健康寿命を平均寿命に近づけていくことが大切だ。

その一つとして注目してほしいのが「認知症予防」対策だ。高齢者の認知症は、今後ますます増加すると予想され、2025年には65歳以上の3人に1人が認知症や軽度認知障害になると言われている。

本日は、認知機能改善のための運動をご紹介します。はじめに、ウォーキングなどの「有酸素運動」。ウォーキングの場合は普段歩くよりも少し歩幅を大きくし、早く歩くことを意識することが大切です。次に、「筋力トレーニング」。いきいき百歳体操は、DVDを見ながら座ったままでも筋力トレーニングができる体操で、徳島県下では現在19市町村、約400カ所です定期的に開催されている。お近くの会場に足を運び、ぜひ積極的に参加していただきたい。最後に、「二重課題運動」について。これは、運動課題と認知課題を同時に行い、認知機能を改善するものである。

人との交流 長寿の鍵

例えば、野菜や魚の名前を挙げながら歩く、計算やしりとりをしながら歩く、車のナンバープレートなどの数字を足し算しながら歩くなど。行う場合は、転倒や事故に十分注意をしながら、安全な場所を選んでほしい。

人は、「口腔機能の改善体操」を行ってほしい。これは、唾液腺のマッサージの他、舌や頬などの運動をすることで、スムーズに食事が取れるようになったり、誤嚥防止となる効果がある。



講演

「気になるけど言えない、聞けない女性の「おしっこ」の悩み」

伊藤 文子
(川島病院泌尿器科医師)



女性はおしっこの悩みを誰にも相談できず、つい我慢がち。「気になる症状がある」と思ったら、気軽に泌尿器科に相談してほしい。

過活動膀胱は、膀胱の神経が敏感になって、尿意が我慢できなくなる疾患。薬物療法他に、「尿意を感じても、少しトイレを我慢する」膀胱機能訓練が効果的。

腹圧性尿失禁は、骨盤底筋が弱くなるのが原因で、咳やくしゃみをした時に尿漏れを起こす疾患。「骨盤底

筋体操」を行うことで、筋肉の緩みを改善できる。

骨盤臓器脱は、骨盤の筋肉が緩むことで、骨盤内の臓器が陰から脱出する疾患。初めは、股の間にピンポン玉のようなものが出てきて不快感がある。初期なら、骨盤底筋体操が効果的。ベッサリーリングの装着、矯正下着をつける方法もある。症状が進行して、出血や排尿障害などが伴うようになった場合は手術も適応になる。

血尿、排尿痛、おしっこが出ない等の場合は、深刻な病気が隠れている場合があるので、早期受診が必要だ。



我慢せず泌尿器科受診

講演

「ご存知ですか？」前立腺の病気の「しりとり」

西谷 真明
(川島病院泌尿器科部長)



前立腺は男性だけにある臓器で、その病気も男性特有のものである。最近、前立腺肥大症や前立腺がんの患者数は急速に増加している。

前立腺は、膀胱の下にあるクルミくらいの大きさの器官。前立腺の中には尿道が通っており、病気などによって前立腺に変化が起こると、排尿困難・頻尿・排尿痛・血尿などの排尿に関連した症状を引き起こす。

「急性前立腺炎」を発症するのは、中高年の男性に多い。この病気は重症化に注意が必要。発熱、排尿困難があれば、早期受診が必要だ。治療は、安静を保ちながら抗生薬の投与を行う。

症状なくとも定期検診

「前立腺肥大症」は、前立腺が大きくなる良性の病気で、自覚症状と検査の結果を合わせながら治療方法を選択する。手術が必要な場合、当院では、身体への負担の少ないグリーンライトレーザー手術を行っている。

前立腺の病気 まとめ

- 急性前立腺炎**
熱があって、おしっこの調子が悪い場合には早めに受診しましょう
- 前立腺肥大症**
自覚症状と検査結果をあわせて治療方針を決めます
- 前立腺がん**
早期では無症状のことが多く、早期発見にはPSA検診が有効です

Q&A

Q 慢性腎炎の対処は

A 新田 多発性嚢胞腎は常染色体性優性遺伝なので必ず子孫に伝わるが、遺伝子は両親から1本ずつ対で伝わるため、それぞれの遺伝子の組み合わせでどう発現するかはまだよく分かっていない。そのため、両親のどちらかが嚢胞腎の場合は、20〜30代のうちから超音波検査によって腎臓に嚢胞がないかどうかを調べたり、腎機能の検査を受けたらして、早期発見・早期治療に努めるのが大事である。ぜひ早いうちから専門医にかかってほしい。

A 水分を十分摂取

Q 嚢胞腎のことについて、遺伝性がどの程度あるのか教えてください。(84歳女性)

Q 慢性腎炎による腎機能の衰えを遅らせる方法について教えてください。(69歳男性)

A 新田 慢性腎炎は、脱水や感染症で悪化しやすいのが特徴。腎臓にとっては水がとて重要であるため、水分を十分取ること、手洗いうがいをして風邪をひかないことが大切である。過労や激しい運動も良くない。歩いて足腰を弱らせないことは大事だが、やりすぎは禁物である。また、処方された薬をきちんと飲むことも大事である。

Q いきいき百歳体操の、認知機能改善編と口腔機能改善編のDVD配布または販売はありますか。(59歳女性)

A 鷲 今回ご紹介したDVDの認知機能改善編については、24市町村のうち、この体操を行っている19市町村では役場で「コピー」してもらえる所もある。ぜひ問い合わせしてほしい。口腔機能改善編については、徳島大歯学部尾崎先生が担当になるのでこちらに問い合わせしてほしい。まずはお住まいの市町村の保健師さんに聞いていただき、困ったときには徳島県理学療法士会に相談してほしい。

Q 運動しようと思ってもなかなか続きません。長く続けられる方法を教えてください。(55歳女性)

A 鷲 いい体操でも1人で続けるのはなかなか大変。今日ご紹介したように、週1回だけでも皆で集まって体操を行う場にぜひ参加してほしい。近所にそういった集まりがない場合は、市町村の保健師さんに相談して通いの場の立ち上げの希望を出してほしいと思う。

聴講者から事前に募った質問に対し、新田 鷲岡教授が回答した。

2019年度 事業計画 川島ホスピタルグループ



1へき地医療の支援
①引き続きへき地診療所に医師派遣を行い、へき地における医師確保に貢献する。

2診療内容の充実
①透析患者数の停滞が予想される中で診療科目の拡大に努める。
②診療圏の拡大などにより外来診療を強化する。
③阿南川島クリニックでの腎臓内科外来を強化する。
④藍住川島クリニックでの泌尿器科、腎臓内科外来を強化する。

3透析患者の確保
①医療支援課を発足して通院支援を強化し、外来透析患者の利便性の向上に努める。

4川島病院の新築移転
①安全性や効率性を確保するため、川島透析クリニック隣接地において新病院建築に向け設計を完成し新築工事に着手する。
②川島病院の「理念」、「基本方針」に則り、適切な運用ができる施設とする。
③発生確率の高い南海トラフ地震に対応できる免震構造とし、災害発生後も地域医療の継続を可能とする。
④ロボットなど最先端医療機器を導入し、地域医療の発展向上に寄与する。
⑤既存の川島透析クリニックと統合・連結することにより、人工透析治療を行う患者に対し、より適切な医療を提供する。
⑥誰にも分かりやすい施設設備配置とし、患者、業者、職員等の異動が適切に行える施設とする。

5歯科診療による患者ケアの充実化
①全身疾患を有する患者の歯科治療を実施する。
②入院患者の口腔ケアと摂食嚥下障害への対応を行う。

6職員数の確保
①円滑な業務執行のため、インターネット等を活用し適切な職員数の確保を行う。

7災害対策活動、医療事故防止活動の積極的推進
①透析患者の高齢化に伴い、増加が想定される透析中の抜針事故防止対策の強化を図る。
②医療事故防止のため、勉強会の開催等を通じ職員の技術能力の向上を図る。
③大規模震災を想定しての定期的対応訓練及び災害に備えるための準備を実施する。
④各種手順やマニュアルの周知徹底及び実行を促進する。
⑤対策月間設定等による全職員に対する啓発、教育を強化し充実させる。
⑥震災対策会議を開催し内容を一層充実させる。

8教育・研究活動の強化と支援
①新入職員、中堅職員、途中入職職員への教育内容を充実させる。
②KHGと関連のある分野の全国規模の学会、研究会への積極的参加を奨励し支援する。
③KHGと関連のある分野の研修会、講演会、セミナーへの参加を奨励する。
④院内学習会を定期的に実施し、部署ごとの勉強会、抄読会を頻りに実施する。
⑤部署目標、委員会目標の中間及び年度末フォローによる達成度評価を行い、改善のための指導を実施する。
⑥部署、委員会における研究及び活動テーマ発表会を実施する。
⑦業務上有用な資格の積極的取得の推進と支援を実施する。

9地域社会との連携の強化
①健康福祉フェスタを実施し内容を二層充実させる。(再掲)
②震災対策会議を開催し内容を一層充実させる。(再掲)
③広報誌を継続発行し内容を層充実させる。
④ホームページの内容を充実させタイムリーに更新する。

10病院、クリニックで、具体的な2019年度事業計画を策定する。

写真で見る川島ホスピタルグループ行事

2018-2019 Photo Report

- 健康・福祉フェスタ ● とくしまマラソン
- 阿波踊り ● 慰安旅行・タイ・石垣島
- 部活・サークル紹介 ● バレーボール・バドミントン・太極拳
- BBQ



第21回 健康・福祉フェスタ

HEALTH WELFARE FESTA

2018. 11. 11 (日) 第21回川島病院健康・福祉フェスタが開催されました。今回は、天気もよくポカポカと暖かい陽気の中、たくさんの方々にご参加いただき、過去最高の入場者数でした。



たくさんの方々が集まられる中、ステージでは川島先生の挨拶に始まり、徳島ヴォルティス、ヴォルタくんが登場し、会場を盛り上げました。また、和太鼓演奏、コーラス、ライブ、ヒーローショウ、鼓笛隊による演奏では、幅広い層の方々にはステージを楽しんでいただけたいと思います。

白衣をはおり、本物の医師・看護師・薬剤師さんからの診察や看護を行っていただきました。特に人気だったのは薬剤師の指導の下、子どもたちがお菓子を調剤することが楽しかったようです。健康相談コーナーでは、患者さんやそのご家族だけでなく地域の方々など多くの方が悩みを相談されました。これを機に自分の身体や健康を見直すきっかけになればと考えます。

健康フェスタに参加いただく事でスタッフと患者さんやそのご家族、さらには地域の方々との間に交流が生まれ、より地域に親しまれる病院でありたいと思います。

看護師／有井麻奈美





長野 圭吾 (臨床工学技士)
厳しい42kmでしたが、多くの方の応援で無事完走することが出来ました。ありがとうございました。

山本 雅子 (クラーク)
今回は悪天候の中を応援してもらい、力をもらいました。何度もくじけそうになりましたが、声援にこたえてなんとか完走できました。ありがとうございました。

田村 徹也 (相談渉外室)
みぞれで、体が冷えて5キロほど歩いてしまいました。しかし、応援のおかげで粘ってゴールできました。

横内 義憲 (診療放射線技師)
途中の暴風雨とその後の風で体温を持っていかれ、完全に心が折れましたが沿道にいたかわいらしいミニオンの帽子をかぶった川島病院応援隊に力をもらい、なんとか完走(完歩き)することができました。来年も気力が続く限りチャレンジしようと思います。



島 健二 (医師)
残り10km 霰混じりの雨の中、歩いたり走ったりで田宮街道までたどりつき、6時間のペースメーカーに抜かれそうになって最後の力を振り絞ってゴールインした。お蔭で、85-89歳の部で優勝(5時間52分57秒)の賞状をいただいた。

とくしまマラソン 2019 川島会 遊走会



麻 裕文 (臨床工学技士)
今年も楽しく走れました。



松浦 香織 (管理栄養士)
暴風雨と霰で2度心が折れかけましたが、多くの方の声援がパワーとなりゴールできました!

露口 達也 (臨床工学技士)
追い風参考です

本城 葉月 (医療事務)
天候が悪く何度か諦めかけましたが、多くの方の応援で無事完走することが出来ました。ありがとうございました。

安田 佳恵 (看護師)
スタート前や沿道でたくさんの方の応援いただき、完走できました。

佐木山 薫 (診療放射線技師)
来年は歩くことなく完走目指します

細谷 陽子 (臨床工学技士)
寒すぎて初リタイヤしました。悪天候の中の応援、ありがとうございました。

猪龍 浩司 (診療放射線技師)
毎年応援ありがとうございます。応援のおかげで完走できます。

岩瀬 俊 (医師)
体調も含めひどい状況でのマラソン参加でしたが、多くの方に声援を頂き完走できました。

名倉 香織 (看護助手)
悪天候の中での初フルマラソンとなりましたが、無事完走できました。応援ありがとうございました。

澁谷 正和 (医療支援課)
楽しく走れました。応援ありがとうございました。

溝淵 卓士 (診療放射線技師)
マラソン途中雨風で大変な状況でしたが、たくさんの方の応援のおかげで無事ゴールできました。

多田 浩章 (臨床検査技師)
皆さんの声援のおかげで、無事ゴールできました。

萩原 雄一 (臨床工学技士)
晴天、曇天、暴風雨とあらゆる天気での42.195kmでした。



検査室 室長
高松 典通

マラソンを始めて4年目です
マラソンを始めて4年目です。最初に参加した大会は、徳島市の「阿波吉野川マラソン」で10キロ、最後まで歩くことなく完走したことで満足した大会でした。あれから4年、すっかりマラソンにはまっています。練習は平日の夕方、仕事が終わってからの30分、そして休日の午前中の1時間〜1時間半が基本です。週末は県外の大会にも参加するようになりました。ハーフの大会を中心に、プチ観光を兼ねての参戦です。初めての土地で、沿道の応援を受け、マラソンコースの景色とエイドコーナーを楽しみながら走るのもよい思い出になります。フルマラソンの初参加は、とくしまマラソンです。4回目、2019年のとくしまマラソンは、風雨、嵐の中、5時間7分でした。今回は5時間切りが目標です。マラソンの記録更新には日頃の練習、そしてケガをしない、病気になる、疲れをためないなどの健康管理も重要です。加齢による筋力低下、持久力低下に抵抗しながらこれからもマラソンに挑戦します。



集合写真



16:50
職員食堂にて出陣式、
掛け声練習もバッチリ



17:00
病院前で初踊り、飛鳥の入居者さんや
入院患者さんにも応援に来てくれました。



足の蹴り上げがステキ!



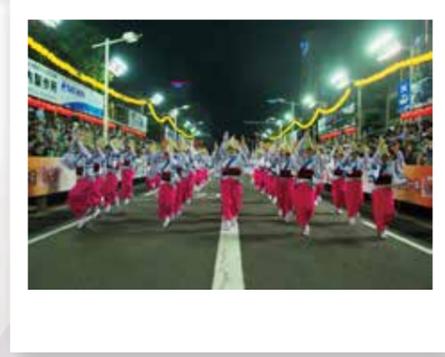
お囃子に合わせて、
腰がだんだん高くなる～



初めて下駄を履いて。
立てるかな?



今年も頑張ります



19:30
紺屋町演舞場
はじめは下駄で歩けるかも
不安でしたが、上手に
蹴り上げられていますね。



AWAODORI 川島病院連 阿波おどり

徳島で毎年開催されている「阿波おどり」の楽しみ方は、多種多様!
今年で発足9年目となる川島病院連。



18:20
藍場浜演舞場

今年初めての職員は観客の
多さにビックリ!緊張の中も
笑顔忘れず踊り切りました

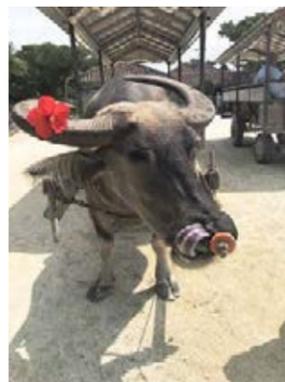


20:10
水口理事長、本藤副院長。
踊り終えてもポーズは
ヤットサーですよ。



20:10
踊り終えた安堵の気持ちと、
少しの寂しさと。

今年も娯茶平さんに踊り方を、一から
ご指導いただき、8月12日総勢133
名で、藍場浜演舞場と紺屋町演舞場
に笑顔振り撒いてきました。
また来年もさらに練習を積んで、笑
顔あふれる踊りを披露できるように
頑張りたいです。
理学療法士/宮本智彦



OKINAWA
ISHIGAKI ISKAND
石垣島



慰安旅行国内組は南国・石垣島!!!



梅雨の石垣島へ行ってきました。初日は生憎の曇り空。しかしやっぱり南国、暑い!!!何より湿度がすごくて汗だくでした(笑)暑い〜!!!と言いながら、初日はみんなで川平湾や鍾乳洞へ行ってきました。川平湾ではグラスボートに乗ってウミガメ探しへ♪しかし…結局ウミガメには出会えず…残念でした。それでもやっぱり海の透明度の違いに驚くとともにとても感動しました。鍾乳洞にはなんとトトロが…笑)夜はみんなで石垣島の郷土料理を食べながら三線・八重山踊り♪

2日目の朝は天気も良く、フリーだったので私たちは竹富島に水牛車に乗りに行ってきました♪♪私たちを乗せてくれた水牛の琉太くん、とってもイケメン水牛でした!!その後は石垣島に戻って島内めぐりをしたのですが、やっぱり梅雨。急なスコールにあってしまいました。青空のビーチに行けなかったのは残念でしたが、その分美味しいものをたくさん食べに行ってきました。八重山そばに石垣牛バーガー、石垣牛の焼肉、ミルミル本舗のアイスクリーム。どれもすごく美味しかったです!! あっという間の2泊3日でしたが、とても楽しい慰安旅行でした!!!お土産に買ったパイナップルやお酒も美味しくて、いっぱい買ったのにペロリと食べてしまいました。

石垣島は何度も訪れたいような魅力がいっぱいなところでした。また家族で行きたいと思えた素敵な旅になりました。

看護師 井上 愛



THAILAND
BANGKOK
バンコク



初めての慰安旅行、
タイの首都バンコクに行ってきました!



熱帯地方に位置し、五月は暑季。スワンナプーム国際空港から一步外に出ると、日本とは異なる蒸暑い熱気が、高揚感と開放感を感じさせます。三泊四日で、世界遺産のアユタヤ遺跡や寺院、王宮観光、週末/ナイトマーケット、繁華街でショッピングなど、楽しみをいっぱい詰め込みました。フォトジェニックな寺院として有名なワット・パクナムは、まるで天上世界のような幻想的な空間で、定年間近の先輩とインスタ映えな写真を撮ることができました。二日目の夜は、皆で中華料理を食べました。上海蟹のカレーが美味しかったです。食後に行った古式マッサージでは、店員さんがタイ語でくすくす話しているのを、意味も分からず聴きながら、微睡むのが心地良かったです。その他、行先を告げる前にタクシーが走り出したり、添乗員さんに止められたけど屋台のココナッツジュースを飲んでみたり、靴が壊れて市場で急遽探す羽目になったり、地下鉄の改札に戸惑っていたら若いカップルが教えてくれたり、定年間近の先輩がマンゴー・タンゴを気に入ったため二回も行った、結局タクシーで目的地と異なる場所に降ろされたり、ホテルのバーでカルボナーラを食べたり、そして、どうしても乗りたかった「ソウさん」にも乗って、タイを満喫できました。一番の思い出は、ニューハーフショー鑑賞後、カッコいい男の娘二人に囲んでもらったことです。将来はきっとトップダンサーになるんだろうな。私も明日から仕事頑張ろうと思いました。

臨床検査技師 正木 千晶



CLUB・CIRCLE INTRODUCTION

結果

2019年7月26日(金)
 開会式:愛媛県総合運動公園体育館
 2019年7月27日(土)
 予選リーグ:愛媛県伊予市民体育館
 ・花王コスメ小田原(神奈川県) 2-0 川島会
 ・川之江バレーボール同好会(愛媛県) 2-0 川島会
 2019年7月28日(日)
 強化トーナメント:愛媛県伊予市民体育館
 ・菜果(兵庫県) 2-0 川島会



川島会バレーボール部

KAWASHIMAKAI VOLLEYBALL CLUB

部活・サークル紹介



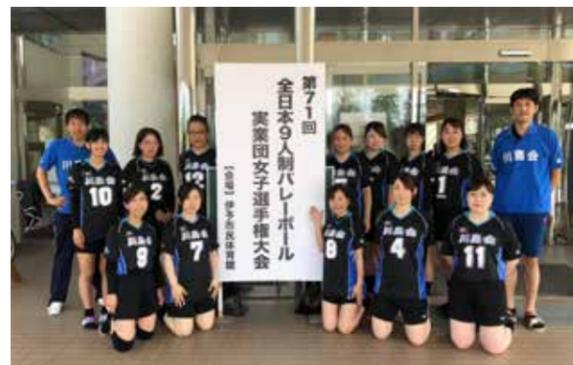
挑戦

2015年6月より職員の運動不足解消やコミュニケーション向上を目的としてバレーボール部を結成以降、年間3回行われている徳島県実業団連盟主催のミックスバレーボール大会に継続して出場しています。※結果はホームページのスタッフブログをご覧ください。

川島会初めての女子バレーボールチームを結成し、川島会長はじめ職員、家族の支えもあり、2019年7月26日、7月28日に行われた第71回全日本9人制バレーボール実業団女子選手権大会に徳島県代表女子チームとして出場してきました。



遠方より足を運んで下さった方々の応援は非常に心強く、大変励みになりました。全国大会の会場にチーム紹介として『川島会』とアナウンスされ試合が始まりましたが、全国の壁は非常に厚く、とても高いものでした。どの試合も点を取ることに難しさを痛感しました。他県の実業団チームと戦ったり、白熱したプレーを間近で観戦出来たりしたことは、今後の川島会バレーボール部にとって貴重な経験となり、嬉しく思います。また近県チームとの交流も深めることも出来、近日に練習試合等の計画も予定しています。



現在、川島会バレーボール部には男女合わせて35名ほどの職員が在籍し、職員家族も一緒に参加して汗を流しています。毎週水曜日20時から22時まで仕事の疲れも忘れ、和気あいあい、笑い多しで練習しています。県内の企業チームとの練習試合も行い、交流を深めたり、今回のように全国大会へも挑戦したりしています。

今年で結成4年目、川島会バレーボール部の顔も県内・県外へと広がりました。職場でもチームワークを大切に、スムーズな環境作りが役立っています。新入職員もバレーボール部に参加し、良い汗をかきながら他部署の職員とのコミュニケーションが取れる環境になっています。

今後も川島会バレーボール部の応援をよろしくお願いいたします。

クラーク/藤澤真司



..... SHIKOKU SABURO NO SATO



川島病院では職員とその家族らが、親睦を深める事を目的とし毎年バーベキュー大会を開催しています。会場は美馬市“四国三郎の郷”。川島病院から車で1時間程の場所にあり、送迎バスも利用できます。久々にバスに乗る職員や家族は、遠足気分がウキウキしながら会場に向かいました。

去年は残念ながら、台風の直撃で中止になってしまい2年ぶりの開催です。参加は大人118人、小中学生22名、幼児26名の合計166名と大人数です。天気は雨予報ではありましたが、殆ど降る事なく曇り空の為に、子ども達は野外でも遊べ、しゃぼん玉や水風船を楽しみました。

皆で楽しく話しながら「焼き奉行」がジューシー。そして美味しいお肉を食べ、よく冷えたお酒やジュースを飲み、会話が弾み、夏を満喫出来た最高に楽しい時間となりました！沢山食べた後は、会長とのじゃんけん大会やスイカ割りなど子どもから大人まで存分に楽しんでいました。

普段はそれぞれ様々な部署で働く職員達ですが、バーベキュー大会を通じて交流が生まれ、また新たな繋がりも出来ました。また来年の開催を楽しみにしています。

臨床検査技師／中岡 加奈子



CLUB・CIRCLE INTRODUCTION

川島会バドミントンサークル

KAWASHIMAKAI BADMINTON CIRCLE



日頃の運動不足と職員間の交流を深めるため、徳島市立体育館にて月に1回、バドミントンサークルを開催しています。近年の健康ブームで運動する人口が増え、体育館の予約も取りづらい状況ですが、施設確保ができないときには懇親会やボウリング大会を開催するなど、親睦を深めています。今年度は新入職の方が5名入会してくれました。入職したばかりでの勤務は緊張や不安もあると思いますが、サークル活動での絆が仕事の連携につながればいいなと思います。とくに成績を残すことはなく、和気あいあいと自由にバドミントンをしているサークルなので、「部」への昇格の道のりは果てしなく遠いですが、近頃は坂東先生に正式なルールを教えていただく機会もあり、レベルアップしていつかは大会に出場?! などということも夢に見たりしつつ、今後も楽しく活動していきたいと思っています。

医事課／福井美香

川島会太極拳サークル

KAWASHIMAKAI TAI CHI CIRCLE



島健二名誉院長が発起人となり、2018年4月より活動を開始しました。現在12名が在籍しており、平均年齢は若干(?)高めですが、みんな健康のために頑張っています。講師の盛下のぶ子先生は、いつもハツラツとしていて笑顔の素敵な先生です。物覚えの悪い私たちにも「他の教室より上達が早いですよ。」とほめて下さり、いつも優しく教えてくれます。最初の1年間は「入門太極拳」と言われる太極拳の入門編を教えていただきましたが、今年度からは「初級太極拳」が始まり、さらに難しい動きが加わってきています。最初は先生の動きを真似することに必死でしたが、次第に頭で次の動きを考えながら体を動かすことができるようになってきました。この意識運動が脳の活性化に役立つ、「ボケ防止」や「若さの保持」に効果があるそうです。

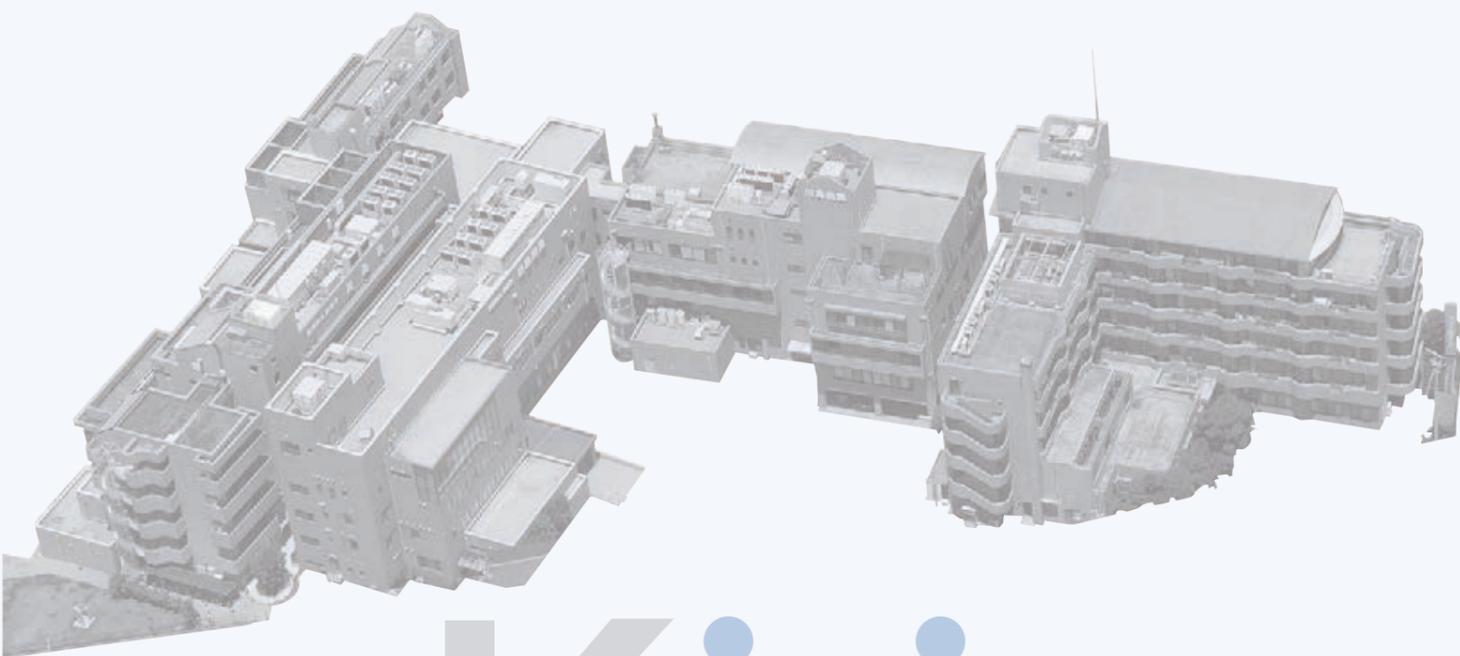
太極拳サークルは毎月第1・3金曜日に開催しています。健康のために、ストレス解消のために、ぜひ一緒に参加してみませんか。

管理栄養士／原恵子

川島ホスピタルグループ 2018~2019年 資料編

広報委員/服部 和代(総務)

- プロフィール
- 医師・職員取得資格
- 医師・職員院外団体等役職
- 職員数
- 座長、司会等
- 診療統計等
- 治験、製造販売後臨床試験



| 主な行事 | 2018年9月~2019年8月

2018	9月	KHG懇親会	
	11月	広報誌16号発行 第21回健康・福祉フェスタ	
	12月	忘年会	
2019	1月	防災訓練	
	2月	第17回川島ホスピタルグループ震災対策会議	
	3月	とくしまマラソン KHG懇親会	
	4月	入職式 新入職員オリエンテーション 歓迎会 川島ホスピタルグループ研究・活動テーマ発表会	
	5月	職員親睦旅行・海外(タイ) (5月) 職員親睦旅行・国内(石垣島) (5月~6月) KHG懇親会	
	6月	KHG懇親会	
	7月	第9回市民公開講座 職員親睦バーベキュー大会	
	8月	川島病院連 阿波踊り参加	

鴨島川島クリニックのプロフィール(2019年9月1日現在)

■ 標榜科目

内科、人工透析内科

■ 指定

保険医療機関、生活保護法、原子爆弾被爆者指定、自立支援医療機関(更生医療指定)、労災保険指定、感染症法38条指定、難病医療指定

■ 届出事項

がん治療連携指導料、透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算、人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)、下肢末梢動脈疾患指導管理加算、導入期加算2及び腎代替療法実績加算



鳴門川島クリニックのプロフィール(2019年9月1日現在)

■ 標榜科目

内科、人工透析内科

■ 指定

保険医療機関、生活保護法、原子爆弾被爆者指定、自立支援医療機関(更生医療指定)、労災保険指定、感染症法38条指定、難病医療指定

■ 届出事項

がん治療連携指導料、透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算、人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)、下肢末梢動脈疾患指導管理加算、導入期加算2及び腎代替療法実績加算



脇町川島クリニックのプロフィール(2019年9月1日現在)

■ 標榜科目

人工透析内科、糖尿病内科

■ 指定

保険医療機関、生活保護法、原子爆弾被爆者指定、自立支援医療機関(更生医療指定)、労災保険指定、感染症法38条指定、難病医療指定

■ 届出事項

在宅血液透析指導管理料、がん治療連携指導料、透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算、人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)、下肢末梢動脈疾患指導管理加算、導入期加算2及び腎代替療法実績加算



阿南川島クリニックのプロフィール(2019年9月1日現在)

■ 標榜科目

内科、人工透析内科、腎臓内科

■ 指定

保険医療機関、自立支援医療機関(更生医療指定)、生活保護法、原子爆弾被爆者指定、労災保険指定、感染症法38条指定、難病医療指定、特定健診

■ 届出事項

透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算、人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)、下肢末梢動脈疾患指導管理加算、導入期加算2及び腎代替療法実績加算



藍住川島クリニックのプロフィール(2019年9月1日現在)

■ 標榜科目

血液透析内科、内科、循環器内科、糖尿病内科、泌尿器科、腎臓内科

■ 指定

保険医療機関、生活保護法、原子爆弾被爆者指定、自立支援医療機関(更生医療指定)、労災保険指定、感染症法38条指定、難病医療指定

■ 届出事項

人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)、下肢末梢動脈疾患指導管理加算、導入期加算1、CT撮影、透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算、がん治療連携指導料



川島病院のプロフィール(2019年9月1日現在)

■ 標榜科目

内科、腎臓内科(人工透析・腎移植)、泌尿器科(人工透析・腎移植)、循環器内科、循環器外科、糖尿病内科、消化器内科、呼吸器内科、放射線科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科、血管外科、脳神経外科、皮膚科

■ 指定

保険医療機関、救急告示、生活保護法、原子爆弾被爆者指定、労災保険指定、自立支援医療機関(更生医療指定)、感染症法38条指定、難病医療指定、DPC対象、介護保険法、特定健診

■ 届出事項

初診料(歯科)の注1に掲げる基準、歯科外来診療環境体制加算1、急性期一般入院基本料4、診療録管理体制加算 1、医師事務作業補助体制加算 1 区分20:1、急性期看護補助体制加算25対1(看護補助者5割以上)夜間急性期看護補助体制加算30対1、夜間看護体制加算、療養環境加算、栄養サポートチーム加算、医療安全対策加算 区分2、感染防止対策加算2、病棟薬剤業務実加算1、データ提出加算 区分2(口:200床未満)データ評価加算、認知症ケア加算(加算2)、入院時食事療養/生活療養(1)、糖尿病合併症管理料、移植後患者指導管理料(臓器移植後)、糖尿病透析予防指導管理料、夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算、ニコチン依存症管理料、がん治療連携指導料、薬剤管理指導料、医療機器安全管理料 1、歯科治療総合医療管理料、在宅患者歯科治療総合医療管理料、在宅血液透析指導管理料、在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算、持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定、歯科訪問診療料の注13に規定する基準、抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)、検体検査管理加算(I)、検体検査管理加算(II)、時間内歩行試験、ヘッドアップティルト試験、画像診断管理加算2、CT撮影及びMRI撮影、冠動脈CT撮影加算、心臓MRI撮影加算、無菌製剤処置料、心大血管疾患リハビリテーション料(I)、脳血管疾患等リハビリテーション料(III)/廃用症候群リハビリテーション料(III)、運動器リハビリテーション料(II)、呼吸器リハビリテーション料(II)、歯科口腔リハビリテーション料 2、透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算、人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)、下肢末梢動脈疾患指導管理加算、導入期加算2及び腎代替療法実績加算、CAD/CAM冠、ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術、ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)、大動脈バルーンパンピング(IABP法)、体外衝撃波胆石破碎術、体外衝撃波尿管結石破碎術、同種死体腎移植術、生体腎移植術、輸血管理料II、輸血適正使用加算、麻酔管理料(I)、クラウンブリッジ維持管理料

■ 施設認定

日本泌尿器科学会専門医教育施設、日本透析医学会認定施設、日本腎臓学会研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本腹膜透析学会教育研修医療機関、日本甲状腺学会認定専門医施設、日本アフェレシス学会認定施設、浅大腿動脈ステントグラフト実施施設

■ その他

地域連携室



川島透析クリニックのプロフィール(2019年9月1日現在)

■ 標榜科目

内科、人工透析内科

■ 指定

保険医療機関、生活保護法、原子爆弾被爆者指定、自立支援医療機関(更生医療指定)、労災保険指定、感染症法38条指定、難病医療指定

■ 届出事項

がん治療連携指導料、透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算、人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)、下肢末梢動脈疾患指導管理加算、導入期加算2及び腎代替療法実績加算



日本人間ドック学会人間ドック認定医	小松 まち子			
日本臨床検査医学会専門医	野間 喜彦			
日本医学放射線学会放射線診断専門医	日下 まき	城野 良三		
日本IVR学会専門医	城野 良三			
日本核医学会PET核医学認定医	城野 良三			
日本内分泌学会内分泌代謝科(内科)専門医	小松 まち子	宮 恵子		
日本内分泌学会内分泌代謝科指導医	宮 恵子			
日本医師会認定健康スポーツ医	小松 まち子			
日本甲状腺学会専門医	宮 恵子			
日本消化器病学会認定消化器病専門医	宮 恵子	長田 淳一	曾根 佳世子	
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医	長田 淳一			
日本肝臓学会認定肝臓専門医	長田 淳一			
日本消化器外科学会指導医	岩坂 尚仁			
日本消化器外科学会認定医	岩坂 尚仁			
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医	横田 綾			
日本消化管学会胃腸科認定医	島 久登			
日本動脈硬化学会認定動脈硬化専門医	島 久登			
日本アフレシス学会認定血漿交換療法専門医	島 久登			
日本抗加齢医学会専門医	田代 学			
日本呼吸器学会専門医	坂東 弘康			
日本呼吸器学会指導医	坂東 弘康			
日本呼吸器内視鏡学会専門医	坂東 弘康			
日本呼吸器内視鏡学会指導医	坂東 弘康			
日本アレルギー学会専門医	坂東 弘康			
日本アレルギー学会指導医	坂東 弘康			
日本禁煙学会専門医	坂東 弘康			
日本化学療法学会指導医	坂東 弘康			
日本感染症学会専門医	坂東 弘康			
日本感染症学会指導医	坂東 弘康			
日本プライマリ・ケア連合学会暫定指導医	坂東 弘康			
インфекションコントロールドクター (ICD)	橋詰 俊二	坂東 弘康		
日本麻酔科学会指導医	西出 俊二郎			
日本麻酔科学会専門医	西出 俊二郎			
麻酔標榜医	深田 義夫			

日本内科学会認定内科医	川島 周 長瀬 教夫 宮 恵子 田代 学	島 健二 木村 建彦 長田 淳一 井上 朋子	水口 潤 小松 まち子 曾根 佳世子 坂東 弘康	西内 健 橋詰 俊二 岩瀬 俊	岡田 一義 野間 喜彦 東 博之	宮本 弘 高森 信行 島 久登
日本内科学会総合内科専門医	岡田 一義 田代 学	長瀬 教夫 井上 朋子	木村 建彦	橋詰 俊二	宮 恵子	東 博之
日本内科学会研修指導医	坂東 弘康					
日本透析医学会透析専門医	川島 周 島 久登	水口 潤 田代 学	岡田 一義 井上 朋子	川原 和彦	横田 成司	西谷 真明
日本透析医学会指導医	水口 潤	岡田 一義	川原 和彦			
日本腎臓学会腎臓専門医	水口 潤	岡田 一義	川原 和彦	島 久登	田代 学	井上 朋子
日本腎臓学会認定指導医	水口 潤	岡田 一義	川原 和彦	島 久登		
日本臨床腎移植学会腎移植認定医	水口 潤					
日本移植学会移植認定医	水口 潤					
日本糖尿病学会研修指導医	島 健二	小松 まち子	野間 喜彦	宮 恵子		
日本糖尿病学会専門医	島 健二	長瀬 教夫	小松 まち子	野間 喜彦	宮 恵子	
日本老年医学会指導医	島 健二					
日本小児科学会専門医	川原 和彦					
日本泌尿器科学会泌尿器科指導医	横田 成司	西谷 真明				
日本泌尿器科学会泌尿器科専門医	横田 成司	西谷 真明				
日本泌尿器内視鏡学会泌尿器 腹腔鏡技術認定医	横田 成司					
日本がん治療認定医機構がん治療認定医	横田 成司					
日本外科学会外科専門医	岩坂 尚仁					
日本高血圧学会指導医	西内 健	島 久登				
日本高血圧学会専門医	西内 健	島 久登				
日本循環器学会認定循環器専門医	西内 健	長瀬 教夫	木村 建彦	橋詰 俊二	高森 信行	岩瀬 俊
日本心血管インターベンション治療学会認定医	木村 建彦	高森 信行				
日本心血管インターベンション治療学会専門医	高森 信行					
日本心血管インターベンション治療学会施設代表医	高森 信行					
日本心臓リハビリテーション学会認定 心臓リハビリテーション指導士	高森 信行					
ゴア®/バイアバーン®ステントグラフト実施医	高森 信行					
日本脳神経外科学会脳神経外科認定医	本藤 秀樹					
日本脳卒中学会認定脳卒中専門医	本藤 秀樹					
日本医師会認定産業医	長瀬 教夫	小松 まち子	宮 恵子	曾根 佳世子		
日本人間ドック学会人間ドック 健診情報管理指導士	長瀬 教夫	小松 まち子				

認定看護管理者教育セカンドレベル	平野 春美					
インターベンション エキスパートナース	松田 幸子					
日本転倒予防学会認定転倒予防指導士	池尻 真理子					
日本認知症ケア学会認定認知症ケア専門士	戸田 己記					
ACLSプロバイダー	森浦 弥生					
日本心臓リハビリテーション学会認定心臓リハビリテーション指導士	大石 晃久	西本 篤史	仲尾 和恵	三好 友美		
日本理学療法士協会認定指定管理者(上級)	大石 晃久	玉谷 高広				
日本理学療法士協会認定地域包括ケア推進リーダー	大石 晃久	玉谷 高広	西本 篤史			
日本理学療法士協会認定介護予防推進リーダー	大石 晃久	玉谷 高広	西本 篤史			
日本理学療法士協会 認定理学療法士(代謝)	玉谷 高広					
日本ウォーキング協会認定健康ウォーキング指導士	玉谷 高広					
日本ウォーキング協会認定公認ウォーキング指導士	玉谷 高広					
嚙下トレーナー-歯科衛生士	高石 和子	薦田 茜	藤倉 みき			
認定歯科衛生士(認定分野A:摂食嚙下リハビリテーション)	高石 和子					
認定歯科衛生士(認定分野A:糖尿病予防指導)	高石 和子					
社会福祉士	薦田 茜	藤倉 みき				
診療情報管理士	宮島 彰子	原 雅子	辰己 奈月	竹森 洋介		
医師事務作業補助者	秋田 悦代 藤澤 真弓 祖父江 仁美	香川 泰子 藤田 豊子 横田 浩子	久米 ともこ 細田 真帆子 福本 美穂	辰己 奈月 井上 有貴子	森本 麻友美 島田 菜央	近藤 由紀子 橘 迪子
医療情報技師	藤田 諭	奥尾 康晴	末包 博人	高井 紀丞		
施設基準管理士	末包 博人					

臨床研修指導医	岡田 一義 高森 信行	川原 和彦 宮 恵子	長瀬 教夫 島 久登	本藤 秀樹 坂東 弘康	藤本 浩史 岩坂 尚仁	木村 建彦 西出 俊二郎
医療安全管理者	志内 敏郎	萩原 雄一	藤田 都慕	北洲 梓	常陸 真由美	
第一種衛生管理者	志内 敏郎	空野 一葉				
認定実務実習指導薬剤師	志内 敏郎					
腎臓病薬物療法専門薬剤師	志内 敏郎					
日病薬病院薬学認定薬剤師	志内 敏郎	泉 有里子	村上 真也			
二級臨床検査士	高松 典通					
超音波検査士(循環器・血管)	多田 浩章					
超音波検査士(循環器)	吉川 由佳里	中岡 加奈子				
超音波検査士(消化器)	山田 真由美					
緊急臨床検査士	正木 千晶					
第一種放射線取扱主任者	谷 恵理奈					
X線CT認定技師	佐木山 薫					
静脈経腸栄養TNT-D認定管理栄養士	大西 嘉奈子					
日本静脈経腸栄養学会認定栄養サポートチーム専門療法士	藤原 絵理					
透析技術認定士	田尾 知浩 田中 悠作 東根 直樹 相坂 佳彦 福永 輝美	道脇 宏行 播 一夫 英 理香 西内 陽子 新開 美和	細谷 陽子 数藤 敬一 来島 政広 八幡 優季	廣瀬 大輔 原 俊夫 鎌田 優 野口 隼一	中野 正史 清水 一郎 藤原 健司 那佐出 朋代	森 浩章 成瀬 裕深 岡田 大佑 近藤 郁
3学会合同呼吸療法認定士	田中 悠作 森浦 弥生	英 理香	相坂 佳彦	鎌田 優	岡田 大佑	戸田 己記
日本心血管インターベンション治療学会心血管インターベンション技師	東根 直樹	相坂 佳彦				
日本糖尿病療養指導士	大下 千鶴 小谷 明子	戸田 己記 原 恵子	小倉 加代子 森 恭子	佐藤 裕子 松浦 香織	福壽 悦子	楮山 祐子
日本腹膜透析医学会指導看護師	平野 春美 吉見 俊司 日根 千鶴 加藤 美佳	西分 延代 戸田 己記 酒井 紘子 山田 美佳	笹田 真紀 有木 直美 宮下 めぐみ 佐々木 美和	数藤 ゆかり 小倉 加代子 槇納 幸子	数藤 康代 佐藤 裕子 木内 雄子	森下 成美 岡本 真紀 井上 愛
徳島県糖尿病療養指導士	北洲 梓 槇納 幸子 尾方 恵美 多田 浩章 西本 篤史	吉見 俊司 木内 雄子 森 和代 玉谷 高広 登井 麻絵	石野 聡子 藤本 花恵 杉野 有里子 友成 美貴	奥谷 晴美 原田 郁子 空野 一葉 宮本 智彦	近藤 郁 中飯 美代 桑村 亜矢子 若山 憲市	日根 千鶴 河野 久美子 木村 浩徳 秦 麻友
腎臓病療養指導士	泉 有里子	村上 真也	原 恵子	数藤 康代		
慢性腎臓病療養指導看護師	三宅 直美	数藤 康代	小倉 加代子	小川 昌平		
レシピエント移植コーディネーター	西川 雅美	秋山 和美				

田尾 知浩	一般社団法人徳島県臨床工学技士会理事、徳島透析療法カンファレンス幹事
道脇 宏行	一般社団法人日本血液浄化技術学会学術委員
竹内 教貴	公益社団法人日本臨床工学技士会人材活性化委員会中国・四国地区ブロック委員 公益社団法人日本臨床工学技士会人材活性化委員会都道府県Yボード連絡員徳島県担当 中四国臨床工学技士会連絡協議会若手委員、一般社団法人徳島県臨床工学技士会副会長 一般社団法人徳島県臨床工学技士会若手委員会委員長
大下 千鶴	徳島県立総合看護学校准看護学科講師・第一看護学科講師、徳島糖尿病看護研究会幹事、 徳島県看護協会AWAナースサポートセンター事業運営委員
三宅 直美	徳島腎不全看護研究会幹事
西谷 千代子	徳島県立総合看護学校准看護学科講師
笹田 真紀	徳島県看護協会ナースバンクプロジェクト委員
数藤 康代	徳島腎不全看護研究会幹事・事務局、徳島透析療法カンファレンス幹事、日本腎不全看護学会透析療法指導看護師徳島県代表
佐藤 裕子	徳島CDEJ会世話人
楮山 祐子	徳島CDEJ会世話人
奥尾 康晴	一般社団法人阿波あいネットシステム管理委員

職員数

職員数 2019年4月1日現在 注:()内は2018年4月1日現在

■社会医療法人川島会 職員数合計／570名(560)

- 常勤医師／35名(31)
- 歯科医師／1名(1)
- 非常勤医師／45名(60)
- 看護師／138名(128)
- 准看護師／26名(25)
- 看護助手／64名(67)
- 薬剤師／12名(12)
- 管理栄養士／8名(8)
- 臨床検査技師／13名(13)
- 診療放射線技師／11名(12)
- 臨床工学技士／70名(63)
- 理学療法士／7名(7)
- 作業療法士／1名(0)
- 歯科衛生士／4名(4)
- 医事課／35名(33)
- 診療情報課／3名(2)
- クラーク／53名(50)
- 総務課／18名(18)
- 医療支援課／19名(21)
- 訪問介護員／7名(5)

■社会福祉法人飛鳥 職員数合計／41名(46)

- 施設長／1名(1)
- 管理者／3名(3)
- 介護支援専門職員／4名(5)
- 看護師／3名(3)
- 介護職員／7名(7)
- 生活相談員／3名(4)
- 栄養士／1名(1)
- 事務員／1名(1)
- サービス提供責任者／2名(2)
- 訪問介護員／15名(17)
- 医療ソーシャルワーカー／1名(2)

川島 周	日本赤十字社理事、徳島県赤十字有功会副会長、徳島大学臨床教授、徳島写楽の会会長、徳島彫刻文化を進める会会長
島 健二	徳島大学名誉教授、日本糖尿病学会名誉会員、日本臨床化学会名誉会員、日本病態栄養学会評議員、徳島県保険者協議会顧問
水口 潤	日本腹膜透析医学会理事長、日本ハイパフォーマンスメンブレン研究会理事長、日本HDF研究会理事、日本アクセス研究会理事、腎臓病臨床経済協議会理事、とくしま移植医療推進財団理事、腎臓病SDM推進協会幹事、日本臨床腎移植学会監事、四国透析療法研究会監事、日本移植学会評議員、日本臨床腎移植学会評議員、徳島大学医学部腎臓内科臨床教授、徳島透析医会会長、日本腎不全栄養研究会顧問、バスキュラーアクセスインターベンション治療研究会世話人
西内 健	徳島市医師会心電図判読委員会委員、日本循環器学会四国支部評議員 日本心血管インターベンション治療学会中国四国支部運営委員、日本心臓リハビリテーション学会四国支部評議員
岡田 一義	日本腎臓学会評議員、日本透析医学会評議員・理事、日本腹膜透析医学会評議員、認定NPO法人腎臓病早期発見推進機構理事 日本高齢者腎不全研究会代表世話人、日本腎栄養代謝研究会顧問
本藤 秀樹	徳島県医師会常任理事、徳島県立中央病院顧問、徳島治験ネットワーク機構理事、 徳島県後期高齢者医療広域連合運営懇話会委員、徳島県後発医薬品適正使用協議会委員会
藤本 浩史	徳島県支払基金審査専門部会長、徳島県医師会腎疾患対策委員
長瀬 教夫	独立行政法人国立病院機構東徳島医療センター名誉院長、日本循環器学会四国支部評議員、糖尿病情報学会評議員
小松 まち子	徳島市医師会糖尿病対策委員会委員
野間 喜彦	日本内科学会四国支部評議員、日本糖尿病協会徳島県支部理事、日本糖尿病学会学術評議員 日本糖尿病対策推進会議徳島県担当委員(日本糖尿病学会担当委員、徳島県医師会担当委員) 徳島県医師会糖尿病対策班班長、徳島大学医学部臨床教授、徳島NST研究会幹事、プラス1000歩県民運動促進会会長
宮 恵子	徳島市医師会女性医師プロジェクト委員
坂東 弘康	徳島県立海部病院名誉院長、徳島大学医学部臨床教授、日本禁煙学会評議員、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会徳島県支部長、 徳島県医師会地域医療支援委員会、徳島県医師会感染対策協議会
川島 友一郎	徳島大学臨床講師、徳島県歯科医師会地域保健部常任委員、徳島市歯科医師会代議員
島 久登	東北大学大学院医学系研究科大学院非常勤講師、日本腎臓学会評議員、 日本透析医学会統計調査委員会 統計解析小委員会委員、日本動脈硬化学会評議員
志内 敏郎	日本腎臓病薬物療法学会理事、COI委員長、専門薬剤師制度副委員長、編集委員副委員長、広報委員、徳島腎と薬剤研究会会長、 CKD・DVD薬剤研究会会長、徳島県病院薬剤師会理事、YMTM(吉野川・美馬・つるぎ・三好)合同薬剤研究会世話人・幹事、 徳島薬剤師循環器研究会世話人
村上 真也	徳島腎と薬剤研究会事務局、CKD・DVD薬剤研究会事務局
原 恵子	徳島NST研究会幹事
松浦 香織	徳島県医療栄養士協議会幹事
高松 典通	徳島大学医学部保健学科非常勤講師
多田 浩章	徳島県臨床検査技師会生理検査研究班副班長、徳島心エコー図研究会世話人
猪龍 浩司	徳島CT研究会世話人
赤澤 正義	日本核医学技術学会中四国地方会世話人、徳島核医学研究会世話人
大石 晃久	日本心臓リハビリテーション学会評議員、日本心臓リハビリテーション学会四国支部幹事・評議員、徳島県心臓リハビリテーション研究会世話役
玉谷 高広	日本心臓リハビリテーション学会四国支部評議員、四国理学療法士学会 査読委員、徳島県理学療法士会 健康増進部員、 東部LCDEの会 徳島市支部 世話人

玉谷 高広	徳島県理学療法士会 平成30年度健康増進部講演会	司会	2018年6月24日
西分 延代	第24回日本腹膜透析医学会学術集会・総会	司会	2018年10月6日
数藤 康代	第63回日本透析医学会学術集会・総会 第29回日本サイコネフロロジー研究会	座長 座長	2018年6月30日 2018年7月7日
市原 久実	第27回徳島NST研究会	座長	2018年10月20日

水口 潤	日本臨床腎移植学会	司会	2018年2月15日
	バスキュラーアクセスインターベンション治療研究会	司会	2018年3月3日
	日本医工学治療学会	座長	2018年3月17日
	徳島透析セミナー	座長	2018年4月10日
	徳島CKD-MBDカンファレンス	座長	2018年4月12日
	日本透析医学会	司会	2018年6月29日
	日本透析医学会	司会	2018年6月29日
	日本透析医学会	司会	2018年6月30日
	日本腎臓代謝研究会	座長	2018年7月14日
	日本高齢者腎不全研究会	司会	2018年7月22日
	徳島透析講演会	座長	2018年8月23日
	日本透析医学会	司会	2018年8月31日
	日本HDF研究会	座長	2018年9月15日
	日本腎臓学会西部学術大会	座長	2018年9月28日
	日本腎臓学会西部学術大会	司会	2018年9月29日
	日本腎臓学会西部学術大会	司会	2018年9月29日
	日本腹膜透析医学会	座長	2018年10月6日
	日本腹膜透析医学会	司会	2018年10月6日
	日本アクセス研究会	座長	2018年10月7日
	日本アクセス研究会	座長	2018年10月13日
日本アクセス研究会	座長	2018年10月14日	
徳島透析療法研究会	座頭	2018年11月25日	
I-HDF研究会	司会	2018年12月8日	
ハイパフォーマンスメンブレン研究会	座長	2018年3月11日	

診療統計等 (2018年4月～2019年3月 注:()内は前年同期)

■外来患者延数 ■歯科患者延数 ■入院患者延数 ■新入院患者延数

外来患者延数	歯科患者延数	入院患者延数	新入院患者延数
54,338名 (52,869)	8,111名 (8,094)	31,822名 (30,928)	1,946名 (1,910)

■血液透析患者数 (3月31日現在)

川島病院	川島透析クリニック	鴨島川島クリニック	鳴門川島クリニック
54名 (52)	504名 (544)	138名 (144)	122名 (126)
脇町川島クリニック	阿南川島クリニック	藍住川島クリニック	在宅透析
113名 (116)	42名 (30)	49名 (-)	4名 (4)
合計			
1,026名 (1,016)			

■延べ回数

川島病院	川島透析クリニック	鴨島川島クリニック	鳴門川島クリニック
13,677回 (13,611)	77,397回 (81,819)	20,625回 (21,189)	18,571回 (18,396)
脇町川島クリニック	阿南川島クリニック	藍住川島クリニック	合計
16,900回 (17,005)	5,323回 (3,976)	4,336回 (-)	156,829回 (155,996)
アフエーシス			
113回 (57)			

■透析患者数

	新規導入患者数	患者数
HD	96名 (93)	1026名 (1,016)
PD	15名 (18)	93名 (97)

■腎移植患者数 ●患者数 / 68名 (64) (3月31日現在)

西内 健	徳島透析療法研究会	座長	2018年1月18日
	血栓を考える会	座長	2018年1月23日
	第29回日本老年病学会四国地方会	座長	2018年2月18日
	心房細動Total Care	座長	2018年3月27日
	静脈血栓治療WEBセミナーin徳島 Heart Failure Coagulation Meeting	座長	2018年10月15日 2018年11月19日

岡田 一義	第63回日本透析医学会学術集会・総会	座長	2018年6月29日
	第63回日本透析医学会学術集会・総会	座長	2018年6月30日
	第24回日本HDF研究会学術集会・総会	座長	2018年9月15日
	第4回中四国在宅透析研究会	座長	2018年9月22日
	第24回日本腹膜透析医学会学術集会・総会	座長	2018年10月6日
	第24回日本腹膜透析医学会学術集会・総会	座長	2018年10月7日

川島 友一郎	第60回全日本病院学会	座長	2018年10月7日
--------	-------------	----	------------

志内 敏郎	第21回徳島腎と薬剤研究会	座長	2018年1月16日
	CKD・CVD薬剤研究会	座長	2018年2月15日
	CKD・CVD薬剤研究会	座長	2018年3月13日
	レミッチOD錠発売1周年記念web講演会	座長	2018年4月12日
	第4回YMTM合同薬剤研究会	座長	2018年6月3日
	CKD・CVD薬剤研究会	座長	2018年6月28日
	第12回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会	座長	2018年10月20日
	第12回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会 第57回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会	座長	2018年10月21日 2018年11月11日

原 恵子	第27回徳島NST研究会	座長	2018年10月20日
------	--------------	----	-------------

田尾 知浩	第8回中四国臨床工学会	座長	2018年9月29日
-------	-------------	----	------------

道脇 宏行	中四国MEフォーラム	座長	2018年2月17日
	第33回日本ハイパフォーマンス・メンブレン研究会	座長	2018年3月10日
	第63回日本透析医学会学術集会・総会	座長	2018年6月30日

森 浩章	第49回徳島透析療法研究会	座長	2018年11月25日
------	---------------	----	-------------

多田 浩章	第42回徳島県医学検査学会	座長	2018年12月9日
-------	---------------	----	------------

大石 晃久	第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	座長	2018年7月14日
-------	-------------------------	----	------------



編集後記

今年、新しい時代を祝う一方で、
 多くの経験したことのない出来事がおきました。
 何か感情をコントロールするのが難しい、
 良くも悪くも落ち着かない毎日だったと思います。
 私たち川島会のチーム医療についてお伝えできたことは、
 今年だからこそ、意味があったのではないかと感じています。

発行に携わって頂いた皆さんに感謝申し上げます。
 ありがとうございました。
 特に広報誌チームのみんなに心から拍手!

広報委員長 川島 友一郎

診療統計等 (2018年4月～2019年3月 注:()内は前年同期)

■主要処置・検査件数

消化器内視鏡	CT	冠動脈CT	シャントPTA
978件(845)	4,372件(4,173)	345件(373)	502件(486)
腎生検	心カテ/PTCA	RI	MRI
37件(62)	235件(250)	282件(255)	1,796件(1,659)
心エコー	骨密度	嚥下内視鏡	
3,059件(2,838)	1,066件(980)	0件(5)	

■手術・処置件数

手術総数	結石破砕	シャントPTA	ペースメーカー植え込み
1,550件(1,571)	69件(95)	502件(486)	12件(11)

■栄養指導件数 ●指導件数/2,361件(1,974)

■糖尿病教室 2018年8月25日 「カンパセーションマップで楽しみながら学び愛」 参加者5名
 2019年2月2日 「みんなで学ぶ糖尿病教室」 参加者16名

■リハビリ件数 ●個別/理学療法総単位 20,907件(18,297) 作業療法総単位 1,917件(0) ●消炎/0件(2)

■ケアハウスあすか入居者数(延べ実利用者数)	572件(595)
■デイサービスセンター利用者数(延べ)	7,249件(7,199)
■ヘルパーステーション利用者数(延べ実利用者数)	907件(1,001)
■在宅介護支援センター計画数(延べ実計画数)	1,654件(2,161)
■相談支援事業	1,372件(1,265)
■訪問介護利用者(延べ)	271件(280)

治験、製造販売後臨床試験/2018年1月～12月

■治験 ●川島病院	第Ⅲ相試験	0件
	第Ⅱ相試験	2件
●川島透析クリニック	第Ⅲ相試験	0件
	第Ⅱ相試験	0件
	医療機器	0件

■製造販売後調査 ●川島病院 5件